

ISSN 0385—0293

沖繩県立博物館年報

No. 24



1991

沖繩県立博物館

序

平成2年度は次のような事業を行いました。

4月下旬から5月上旬にかけて、前年度に寄贈・購入・収集しました資料を公開する恒例の「新収蔵品展」を開催しました。寄贈品の中には米国在住のリー夫妻からの永福寺の鐘もあり、注目を集めました。

企画展として、8月中旬から9月はじめに「沖縄の野鳥展」、11月に「沖縄の祭り展」、2月に「技と美—大城志津子の世界—」を開催し、好評を博しました。

当館が特に力を入れて取り組んでいる移動博物館は14回目をかぞえ、北大東村で行われました。また、文化講座は第188回から第199回まで実施しました。

新規の事業として、沖縄県立博物館新館建設検討委員会が発足しました。国内先進博物館の視察、建設基本構想案の検討会議を重ね、平成3年3月7日に池原貞雄会長ならびに鈴木雅夫副会長から高良清敏教育長へ「沖縄県立博物館基本構想」の答申がなされました。

平成3年度は特別展「アジアの祭りと芸能—音楽と仮面」、企画展「沖縄のちょう展」、
「壺屋の陶工遺作展」、
「琉球の香り・泡盛の歴史と文化」の四つの展示会を予定しております。

今後とも、特別展や企画展、文化講座などの博物館活動を充実させていきたいと思っておりますので、なお一層のご助言、ご協力をお願いいたします。

平成3年6月

沖縄県立博物館長

大 城 宗 清

目 次

序	館長 大城宗清
I 概要	
1 沿革	1
2 施設・設備	3
3 予算	5
4 組織	6
II 入館者数	
1 入館者数	8
2 県内外児童生徒学生団体見学者	11
III 展示活動	
1 常設展	13
2 企画展	16
3 移動博物館	25
IV 教育普及活動	
1 博物館文化講座	29
2 博物館学習ノート	31
V 調査研究活動	
1 調査研究	33
2 著作論文	35
VI 収蔵資料	
1 収蔵資料現在高	37
2 平成2年度(1990)収蔵資料	37
3 平成2年度(1990)収蔵資料目録	38
4 所蔵国県指定文化財	41
VII 刊行物	42
VIII その他の活動	
1 資料貸出	44
2 燻蒸処理	45
3 沖縄県立博物館協議会	45
4 沖縄県博物館協会	46
5 沖縄県立博物館友の会	47
IX 新館建設	49
X 日誌抄	52
XI 関係法規抄録	53

I 概 要

1 沿 革

〔前史〕昭和11年(1936)沖縄県教育会付設として旧首里城北殿を利用して「沖縄郷土博物館」が創設されたが、同館は昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。いっぽう、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、同21年3月頃首里に「沖縄郷土博物館」が設立された。

〔創設〕昭和21年(1946)4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称して新発足。これが当館の創立に当たる。

〔発展〕昭和28年(1953)東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年には「琉球政府立博物館」と改称。また、41年には現敷地に新館を建設して移転する。47年の日本復帰にともない名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年、2階を増築し展示スペースを拡大して現在に至る。

〔主な事項〕

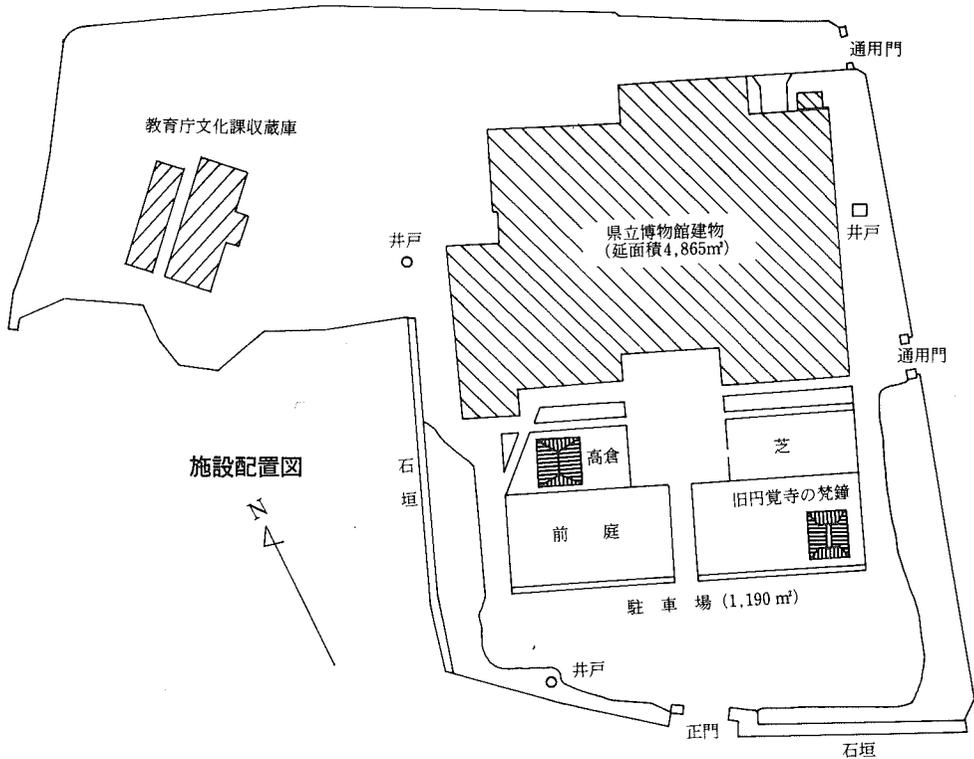
-
- | | |
|-------------|---|
| 昭和21年(1946) | 4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し沖縄民政府の所管とする。 |
| 昭和22年(1947) | 12月、前年3月に首里汀良町に設立された沖縄郷土博物館も民政府に移管され、「沖縄民政府立首里博物館」と改称される。 |
| 昭和28年(1953) | 3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。この年5月、首里博物館は当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館を落成。 |
| 昭和30年(1955) | 9月、琉球政府発足にともない首里博物館を「琉球政府立博物館」と改称する。 |
| 昭和40年(1965) | この年、大中町の旧尚家屋敷跡(中城御殿、現敷地)を購入する。 |
| 昭和41年(1966) | 10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し移転。11月に開館。 |
| 昭和47年(1972) | 2月、サントリー美術館との共催で「50年前の沖縄」写真展を開催。
5月、日本復帰にともない「沖縄県立博物館」と改称。 |
| 昭和48年(1973) | 2月、国庫補助により2階を増築し、展示室を3室増やす。 |
| 昭和51年(1976) | 4月、創立30周年記念式典を行う。 |
| 昭和55年(1980) | 1月、特別展「日本の美——救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」を開催。2月、移動博物館を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後、毎年離島市町村で実施する。11月、特別展「失われた生物たち——大恐龍展」開催。 |

- 昭和56年(1981) 3月30日付で博物館法に基づき登録される。10月、特別展「沖縄の美——日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」を開催する。
- 昭和57年(1982) 5月、新たに常設展として自然部門を設ける。10月、特別展「熊本県・沖縄県交流展——熊本の歴史と文化」を開催する。
- 昭和58年(1983) 11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美——風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催する。
- 昭和60年(1985) 11月、特別展「グスク——グスクが語る古代琉球の歴史とロマン」を開催する。
- 昭和61年(1986) 2月、特別展「美術工芸の美を求めて——大嶺薫コレクション」を開催する。
- 昭和62年(1987) 10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画——物故作家」開催。12月、企画展「田名家所蔵品展—ある首里士族の400年」開催する。12月、企画展「現代沖縄の陶芸——天野鉄夫コレクション」開催する。
- 昭和63年(1988) 8月、特別展「ヤンバルの自然」開催する。11月、特別展「三線名器100挺展」開催する。
- 平成元年(1989) 11月、特別展「インドネシアの更紗展」を開催する。
- 平成2年(1990) 1月、特別展「大アンデス文明展」開催する。

歴 代 館 長

〔東恩納博物館〕 大嶺 薫(昭和21・4～28・3)	〔首里博物館〕 豊平 良顯(昭和22・12～23・3) 原田 貞吉(昭和23・8～28・3)
<p>原田 貞吉(昭和28・3～30・5)</p> <p>山里 永吉(昭和30・8～33・8)〔琉球政府立博物館〕</p> <p>金城増太郎(昭和33・9～36・12)</p> <p>大城 知善(昭和37・2～44・11)</p> <p>外間 正幸(昭和44・12～56・3)〔沖縄県立博物館〕</p> <p>大城徳次郎(昭和56・4～58・3)</p> <p>大城 立裕(昭和58・4～61・3)</p> <p>大城 宗清(昭和61・4～)</p>	

2 施設・設備



施設規模

●敷地面積	11,267㎡
●建物のべ面積	4,865㎡
1階及び講堂部分	2,893
2階	1,571
地階	401
●展示面積	1,590㎡
1階	632
2階	958
●ロビー面積	256㎡
●収蔵庫面積	677㎡
●駐車場面積	1,190㎡
●庭園面積	1,612㎡
●講堂	632㎡
客席数630席(1階240)	

●空調機能力

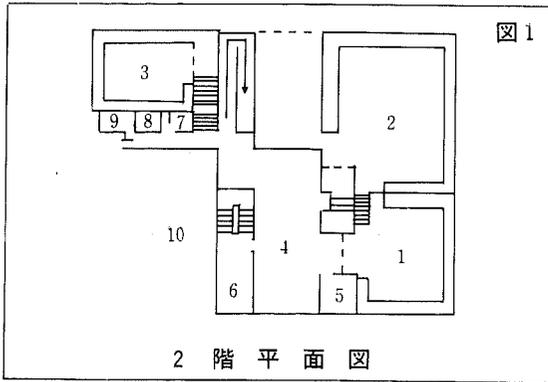
ヒートポンプ式チリングユニット	125,000kcal/h × 2機
エアハンドリングユニット	7機
パッケージ型エアコン	56,000kcal/h × 1機
	28,000kcal/h × 1機
	20,000kcal/h × 2機
	8,400kcal/h × 1機

●変電室

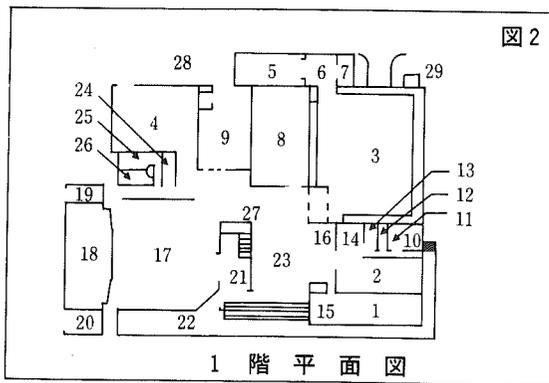
電灯	1Φ3W 30KVA × 1機
電灯・動力	3Φ4W 100KVA × 1機
動力	3Φ3W 250KVA × 1機

●契約電力.....235kw

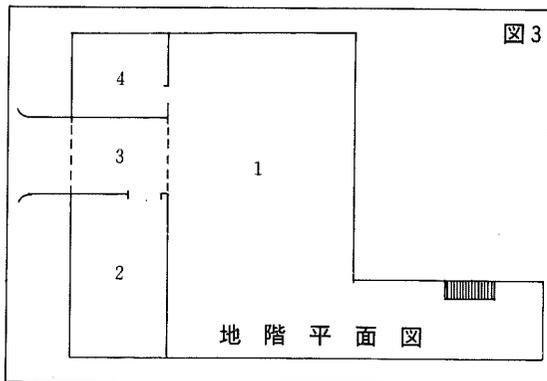
建物平面図および室名・面積



< 2 階 >	
番号	室名
1	美術工芸展示室……………265m ²
2	民俗展示室……………436
3	漆器収蔵室……………170
4	企画展示室……………257
5	空調室……………29
6	ホール控室……………59
7	化粧室(女)……………6
8	化粧室(男)……………11
9	空調室……………12
10	ホール中2階……………61



< 1 階 >	
番号	室名
1	事務室……………115m ²
2	会議室……………96
3	歴史展示室……………462
4	自然史展示室……………170
5	収蔵庫……………120
6	荷解場……………32
7	陶磁器収蔵庫……………11
8	中庭……………152
9	厨子饗収蔵庫……………91
10	宿直室……………11
11	湯沸室……………8
12	化粧室(女)……………7
13	化粧室(男)……………9
14	図書室……………28
15	館長室兼応接室……………28
16	首里城正殿模型……………18
17	講堂(客席)……………428
18	ステージ……………116
19	控室……………19
20	控室……………32
21	講堂出入口……………37
22	守衛室……………14
23	ロビー……………256
24	倉庫……………14
25	化粧室(女)……………21
26	化粧室(男)……………17
27	案内コーナー・友の会……………10
28	空調室……………11
29	ポンプ室……………5



< 地 階 >	
番号	室名
1	収蔵庫……………285m ²
2	冷房機室……………58
3	荷解場……………28
4	変電室……………30

3 予 算

平成2年度博物館費（決算）

単位：円

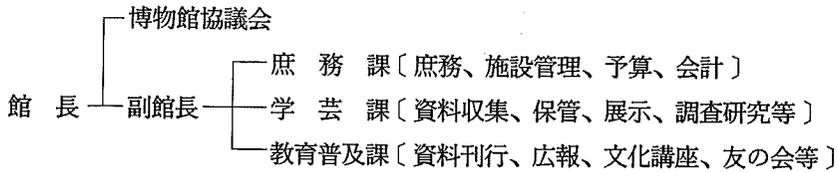
	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博 物 館 費
報 酬	110,400	0	110,400
賃 金	0	94,720	94,720
報 償 費	683,000	8,000	691,000
旅 費	2,922,402	3,605,421	6,527,823
（普通旅費）	（1,967,194）	（1,958,046）	（3,925,240）
需 要 費	22,615,055	7,949,689	30,564,744
消 耗 品 費	2,506,255	392,490	2,898,745
燃 料 費	48,973	0	48,973
（食料費）	214,732	0	214,732
印 刷 製 本 費	1,962,089	5,565,179	7,527,268
修 繕 費	15,890,286	0	15,890,286
修 繕 費	1,992,720	1,992,020	3,984,740
役 務 費	958,853	6,182,558	7,141,411
通 信 運 搬 費	887,593	5,689,925	6,577,518
手 数 料	44,290	492,633	536,923
筆 耕 翻 訳 料	20,000	0	20,000
保 險 料	6,970	0	6,970
委 託 料	13,310,296	2,392,690	15,702,986
使用料及び賃借費	574,947	50,500	625,447
工 事 請 負 費	6,587,406	0	6,587,406
備 品 購 入 費	8,616,481	1,478,050	10,094,531
負担金補助及交付金	65,000	0	65,000
公 課 費			0
合 計	56,443,840	21,761,628	78,205,468

平成2年度歳入状況（決算）

科目名	内 訳	
	常 設 展	特 別 展
博 物 館 枝 葉 料	9,790,290	4,337,710
建 物 子 葉 料	26,272	0
雑 入	75,189	0
小 計	9,891,751	4,337,710
合 計	14,229,461	

4 組 織

(1) 機 構



(2) 職員構成

平成3年4月1日現在

職名	氏名	担当業務
館長	大城宗清	博物館業務の総理に関すること。
副館長	西平守勝	館長補佐、庶務課、学芸課、教育普及課と調査に関すること。
庶務課長	大城光仁	庶務課の統轄。庶務、施設管理、予算、事業に関すること。
副主任	宜保光子	予算決算、会計事務に関すること。
主事	西江幸枝	歳入、庶務、人事、福利厚生に関すること。
技師	名喜真盛和	施設設備の保守管理に関すること。
学芸課長	大城将保	学芸業務の統轄、歴史資料及び沖博協に関すること。
充指導主事	千木良芳範	総合調査調整、写真撮影、沖博協及び自然史に関すること。
学芸員	萩尾俊章	博物館資料の保存及び歴史資料に関すること。
学芸員	与那嶺一子	博物館の資料の受入れ、整理分類及び工芸に関すること。
教育普及課長	当真嗣一	教育普及業務の統轄及び考古資料に関すること。
充指導主事	上門清春	博物館学習、団体見学の調整及び自然史に関すること。
充指導主事	津波古聡	教育普及、文化講座、写真撮影及び美術工芸に関すること。
専門員	大城学	教育普及、移動博物館、講演会及び民俗に関すること。

非常勤職員 (委託業務)	氏名	担当業務
教育普及	上原敏子	展示の解説。
監視	西平節子	受付及び監視に関すること。
〃	東美智子	〃 〃
〃	小橋川敏子	監視に関すること。
〃	西平勝子	〃 〃
〃	喜屋武トシ子	〃 〃
〃	比嘉春子	〃 〃
清掃員	渡慶次柴宝	清掃に関すること。

博物館友の会	氏名	担当業務
博物館友の会	池宮城啓子	博物館友の会の庶務会計

(3) 人事異動

平成3年4月1日

職名	氏名	適 用
〈 転 出 〉		
学芸課長	知念 勇	文化課課長補佐へ
主任	新崎 文子	義務教育課主任へ
〈 転 入 〉		
学芸課長	大城 將保	文化課主任専門員から
主 事	西江 幸枝	総務課主事から
学 芸 員	萩尾 俊章	具志川商業高等学校教諭から (平成2年8月1日異動)

(4) 博物館協議会名簿

	委 員 名	所 属	職 名
学校 経 験 者	翁 長 自 修	琉大教育学部 (美術工芸)	教 授
	西 平 守 孝	〃 理学部生物学科 (自然)	〃
	金 城 正 篤	〃 法文学部史学科 (歴史)	〃
	平 敷 令 治	冲国大文学部 (民俗)	〃
学校 教 育	嵩 元 政 秀	興南中学校 (考古) (副会長)	校 長
	浦 崎 修 子	首里中学校	〃
社会 教 育	安 谷 昭 吉	中部農林高校	〃
	高 良 房 子	沖縄県婦人連合会	理 事
	屋 田 直 勝	沖縄県PTA連合会	会 長
	新 城 紀 秀	沖縄県社会教育委員 (会長)	議 長

任期：平成2年5月1日～平成4年4月30日

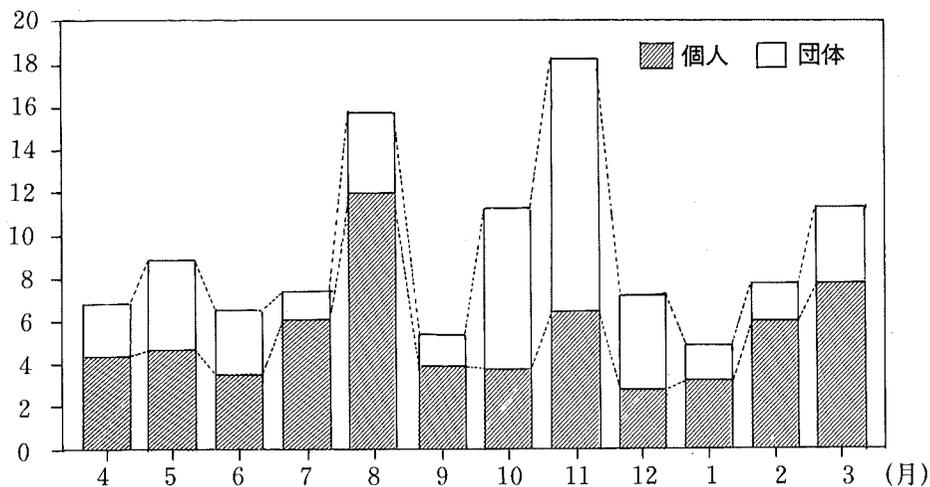
II 入館者数 (平成2年4月1日~平成3年3月31日)
 1. 入館者数 (平成2年4月1日~平成3年3月31日)
 月別入館者数

年	個人入館者数						団体入館者数						入館者総数						開館日数	1日平均入館者数							
	大人		高大学生		小中学生		大人		高大学生		小中学生		大人		高大学生		小中学生										
	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)									
2年4月	3,519	(147)	260	(0)	389	(1)	4,168	(146)	527	(175)	1,333	(0)	456	(38)	2,316	(213)	4,046	(322)	1,593	(0)	845	(39)	6,484	(361)	24	285	
5月	3,627	(149)	326	(0)	469	(0)	4,422	(146)	966	(356)	904	(0)	1,974	(19)	3,844	(376)	4,593	(505)	1,230	(0)	2,443	(19)	8,266	(524)	25	352	
6月	3,046	(42)	100	(0)	152	(53)	3,298	(95)	818	(162)	1,144	(0)	857	(3)	2,819	(185)	3,864	(294)	1,244	(0)	1,009	(56)	6,117	(280)	25	256	
7月	3,409	(86)	381	(9)	683	(1,376)	4,473	(1,471)	588	(53)	442	(35)	175	(0)	1,205	(88)	3,997	(199)	823	(44)	858	(1,376)	5,678	(1,559)	22	329	
8月	6,950	(150)	1,333	(0)	3,207	(324)	11,490	(474)	1,523	(292)	1,007	(0)	741	(211)	3,271	(503)	8,473	(442)	2,340	(0)	3,948	(535)	14,761	(977)	27	583	
9月	3,169	(75)	384	(0)	218	(10)	3,771	(85)	430	(54)	828	(0)	117	(0)	1,375	(54)	3,599	(129)	1,212	(0)	335	(10)	5,146	(139)	24	220	
10月	3,133	(109)	240	(0)	235	(5)	3,608	(114)	969	(556)	2,079	(0)	3,575	(354)	6,623	(910)	4,102	(665)	2,319	(0)	3,810	(359)	10,231	(1,024)	24	469	
11月	5,201	(176)	435	(0)	504	(0)	6,140	(176)	1,540	(748)	5,517	(0)	3,891	(153)	10,948	(901)	6,741	(994)	5,952	(0)	4,995	(153)	17,088	(1,077)	24	737	
12月	2,223	(43)	323	(0)	147	(0)	2,693	(43)	676	(238)	3,375	(0)	95	(0)	4,146	(238)	2,899	(261)	3,698	(0)	242	(0)	6,839	(281)	22	324	
3年1月	2,751	(51)	100	(0)	181	(0)	3,032	(51)	542	(87)	870	(60)	54	(31)	1,466	(178)	3,293	(138)	970	(60)	235	(31)	4,498	(229)	22	215	
2月	4,728	(349)	521	(0)	300	(0)	5,549	(349)	658	(119)	545	(0)	432	(3)	1,635	(122)	5,386	(468)	1,066	(0)	732	(3)	7,184	(471)	23	333	
3月	5,974	(137)	1,466	(0)	665	(0)	7,505	(137)	1,165	(148)	1,676	(0)	525	(29)	3,366	(177)	6,539	(285)	3,142	(0)	1,190	(29)	10,871	(314)	26	430	
合計	47,130	(1,514)	5,669	(9)	7,150	(1,769)	60,149	(3,292)	10,402	(3,008)	19,720	(95)	12,892	(841)	43,014	(3,944)	57,532	(4,522)	25,589	(104)	20,042	(2,610)	103,163	(7,236)	総日数		
総計	48,644		5,878		8,919		63,441		13,410		19,815		13,733		46,958		62,064		25,693		22,652		110,399		288	383	

曜日別入館者数

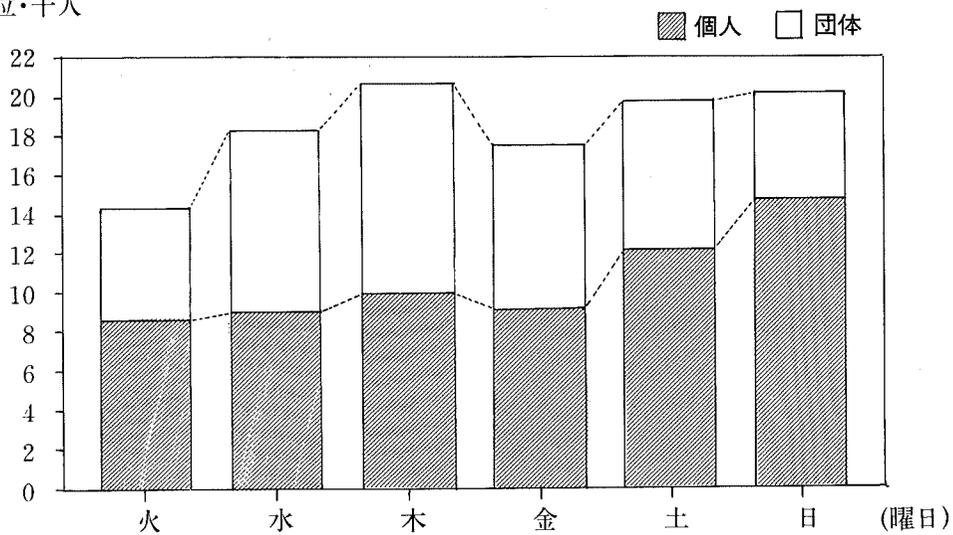
月	個人入館者数						団体入館者数						入館者総数						開館日数	1日平均入館者数						
	大人		高大学生		小中学生		大人		高大学生		小中学生		大人		高大学生		小中学生									
	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)	有料	(無料)								
火	6,335	(239)	720	(0)	873	(395)	7,928	(634)	1,994	(454)	1,795	(35)	1,872	(132)	5,061	(621)	7,729	(693)	2,515	(35)	2,745	(527)	12,989	(1,265)	47	303
水	6,882	(203)	979	(0)	830	(75)	8,691	(278)	1,795	(589)	3,584	(0)	3,296	(100)	8,675	(689)	8,677	(792)	4,563	(0)	4,126	(175)	17,366	(967)	49	374
木	7,994	(262)	1,052	(9)	891	(300)	9,337	(571)	1,467	(750)	5,758	(0)	2,409	(294)	9,634	(1,044)	8,861	(1,012)	6,810	(9)	3,300	(594)	18,971	(1,615)	48	429
金	7,027	(195)	819	(0)	971	(146)	8,817	(341)	1,186	(440)	4,512	(0)	1,925	(197)	7,623	(637)	8,213	(635)	5,331	(0)	2,896	(343)	16,440	(978)	47	371
土	8,805	(428)	1,005	(0)	1,990	(486)	11,200	(914)	1,570	(493)	3,237	(0)	2,238	(41)	7,045	(534)	10,375	(921)	4,242	(0)	3,628	(527)	18,245	(1,448)	48	410
日	10,687	(187)	1,294	(0)	2,195	(367)	14,176	(554)	2,990	(282)	884	(60)	1,152	(77)	4,976	(419)	13,677	(469)	2,128	(60)	3,347	(444)	19,152	(973)	49	411
合計	47,130	(1,514)	5,869	(9)	7,150	(1,769)	60,149	(3,292)	10,402	(3,008)	19,720	(95)	12,892	(841)	43,014	(3,944)	57,532	(4,522)	25,589	(104)	20,042	(2,610)	103,163	(7,236)	288	383

単位・千人



平成2年度 月別入館者数

単位・千人



平成2年度 曜日別入館者数

団体入館者数

年 月	県 内								県 外								国 内								合 計		
	大人		高大生		小中生		小 計		大人		高大生		小中生		小 計		大人		高大生		小中生		小 計				
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数			
平成2年 4月	3	120	1	53	2	446	6	619	6	327	6	1,280	1	3	13	1,610	2	80	-	-	1	7	3	87	22	2,316	
5月	10	427	1	23	13	838	24	1,288	6	182	5	845	16	1,140	27	2,167	3	333	1	36	1	20	5	389	56	3,844	
6月	9	337	4	156	8	615	21	1,108	12	419	7	988	3	242	22	1,649	3	62	-	-	-	-	3	62	46	2,819	
7月	11	405	-	-	2	155	13	560	5	183	5	369	1	20	11	572	-	-	1	73	-	-	1	73	25	1,205	
8月	9	237	20	939	9	226	38	1,402	9	1,143	1	8	6	510	16	1,661	3	143	1	60	1	5	5	208	59	3,271	
9月	1	51	5	230	1	117	7	398	9	379	7	511	-	-	16	890	-	-	1	87	-	-	1	87	24	1,375	
10月	8	337	2	79	29	2,848	39	3,264	15	632	11	2,000	6	727	32	3,359	-	-	-	-	-	-	-	-	71	6,623	
11月	16	821	3	134	36	3,421	55	4,376	14	697	29	5,383	4	470	47	6,550	1	22	-	-	-	-	1	22	103	10,948	
12月	13	453	-	-	2	49	15	502	7	223	21	3,375	2	25	30	3,623	-	-	-	1	21	1	21	1	21	46	4,146
平成3年 1月	2	38	1	271	2	42	5	351	11	452	2	599	1	10	14	1,061	2	52	-	-	1	2	3	54	22	1,466	
2月	6	170	1	75	4	432	11	677	15	488	3	441	-	-	18	929	-	-	1	29	-	-	1	29	30	1,635	
3月	11	525	-	-	4	404	15	929	17	555	12	1,676	2	116	31	2,347	4	85	-	-	1	5	5	90	51	3,366	
合 計	99	3,921	38	1,960	112	9,593	249	15,474	126	5,680	109	17,475	42	3,263	277	26,418	18	777	5	285	6	60	29	1,122	555	43,014	

移動博物館入館者数（北大東村）

	小 人	大 人	合 計
6月9日(土)	47	74	121
6月10日(日)	96	79	175
	143	153	296

2. 県内外児童生徒学生団体見学者

(小学校) 9,254名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	14	城北小学校 170名	17	宇栄原小学校 233名	2	東小学校 28名		
	14	松川小学校 159名	17	武蔵野東小学校(東京) 88名	6	金城小学校 144名		
	21	天妃小学校 155名	17	伊是名小学校 32名	6	安慶田小学校 175名		
5	2	中城小学校 87名	18	与那原東小学校 130名	6	山内小学校 123名		
	2	南風原小学校 244名	18	普天間小学校 143名	7	大里北小学校 50名		
	9	大里北小学校 49名	18	伊江小学校 61名	7	美崎小学校 51名		
	16	伊仙小学校(鹿児島県) 51名	19	金武小学校 98名	8	津嘉山小学校 135名		
	16	亀津小学校(鹿児島県) 142名	19	読谷小学校 120名	8	恩納小学校 43名		
	16	母間山花徳小学校(鹿児島県) 80名	19	辺土名小学校 53名	8	嘉芸小学校 35名		
	16	徳之島町合同修学旅行(〃) 65名	19	宮森小学校 98名	9	羽地小学校 70名		
	17	金城小学校 133名	10	真壁小学校 46名	9	古堅小学校 145名		
	23	鏡原小学校 37名	19	西原小学校 182名	10	名護小学校 134名		
	24	城辺小学校 48名	19	金武小学校 11名	14	牧港小学校 132名		
	24	下地小学校 40名	24	北玉小学校 76名	14	上本部小学校 43名		
	27	西城小学校 44名	24	漢那小学校 24名	15	城岳小学校 141名		
	29	馬根阿権小学校(鹿児島県) 29名	25	当山小学校 5名	16	久辺小学校 42名		
	30	南大東小学校 27名	25	城西小学校 153名	16	本部小学校 177名		
	31	糸木名小学校(鹿児島県) 26名	25	比屋定小学校 32名	21	大北小学校 77名		
	31	Okinawa Christian School 22名	26	西小学校 55名	21	佐敷小学校 94名		
	31	西辺小学校 41名	26	渡慶次小学校 96名	21	奥間小学校 25名		
	31	久米島小学校 44名	27	和光小学校(東京) 128名	11	22 今帰仁小学校 75名		
	31	久松小学校 34名	27	瀬底小学校 29名	22	安和小学校 30名		
6	6	伊良部小学校 82名	27	松川小学校 180名	22	屋部小学校 60名		
6	7	上野小学校 59名	30	喜屋武小学校 50名	27	高原小学校 209名		
	9	南小学校 147名	31	普天間第二小学校 123名	29	美里小学校 145名		
	9	東小学校 127名	31	大宮小学校 203名	12	13 大宜味小学校 29名		
	10	多良間小学校 28名	31	東江小学校 246名	13	稲田小学校 27名		
	16	福嶺小学校 40名	31	清水小学校 60名	18	Okinawa Christian School 23名		
	16	砂川小学校 57名	31	渡嘉敷小学校 47名	2	14 久茂地小学校 75名		
	20	面縄小学校(鹿児島県) 35名	11	1 天底小学校 37名	15	大名小学校 5名		
	27	佐良浜小学校 105名	1	南原小学校 54名	19	城西小学校 164名		
7	17	仲里小学校 42名	1	屋我地小学校 24名	27	与儀小学校 114名		
9	28	中原小学校 120名	1	米須小学校 63名	3	6 高良小学校 181名		
10	4	美原小学校 104名	1	真喜屋小学校 42名	7	泊小学校 163名		
	9	船越小学校 57名	1	兼次小学校 36名	8	城南小学校 37名		
	13	登野城小学校 188名	2	宜野座小学校 55名				

(中学校) 3,100名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
5	8	成城学園(～5/9東京) 126名	28	白水中学校(熊本) 67名	7	城ヶ丘中学校(鹿児島) 34名		
	9	赤穂中学校(鹿児島) 46名	8	23 宜野湾中学校 43名	9	南風原中学校 247名		
10	10	成城学園(東京) 43名	10	13 金久中学校(鹿児島) 278名	14	羽地中学校 141名		
	13	名瀬中学校(鹿児島) 267名	14	龍南中学校(鹿児島) 66名	15	知念中学校 98名		
	13	赤木名中学校(鹿児島) 89名	21	小宿中学校(鹿児島) 115名	16	山手学院中学校(東京) 73名		
	15	阿蘇中学校(熊本) 128名	27	桜美林中学校(東京) 97名	11	16 成城学園中学校(東京) 170名		
	26	喜界第一中学校(鹿児島) 87名	30	糸満中学校 268名	21	城島中学校(福岡) 222名		
	27	早町中学校(鹿児島) 49名	30	具志頭中学校 106名	1	8 沖繩実務学園 27名		
6	20	一の宮中学校(熊本) 157名	11	2 屋我地中学校 56名				

(高等学校) 17,867名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	1	山陽女子高校(広島) 49名	27	山口農業高校(山口) 112名	12	5	住吉学園高校(~7、大阪) 776名	
	7	東海大附属高輪台高校(東京) 193名	27	石川県立工業高校(石川) 47名	6	6	鶴米高校(石川) 295名	
	11	須磨ノ浦女子高校(兵庫) 657名	30	明浄学院高校(~11/2、大阪) 714名	6	6	北陽高校(~9、大阪) 589名	
	18	福知山淑徳高校(京都) 158名	11	1 小松市立女子高校(石川) 274名	7	7	古川商業高校(~12、宮城) 503名	
	19	日本体育大附属二階堂高校 228名	1	1 尾山台高校(石川) 308名	11	11	帝塚学院泉ヶ丘高校(大阪) 166名	
5	9	綾羽高等学校(滋賀) 106名	2	2 福大附属大瀬高校(福岡) 207名	12	12	法政二高(~13、神奈川) 169名	
	10	金蘭会高校(大阪) 515名	8	8 富士学苑高校(山梨) 234名	13	13	明德商業(~16、京都) 649名	
	19	国立音大附属高校(東京) 175名	8	8 コザ高校 79名	15	15	大阪工業大学高校(大阪) 47名	
	25	潤徳女子高校(東京) 53名	9	9 浪速高校(大阪) 173名	21	21	西山高等学校(京都) 127名	
6	13	徳之島農業高校(鹿児島) 357名	9	9 津幡高校(石川) 42名	22	22	常葉学園高校(静岡) 71名	
	27	本庄女子高校(埼玉) 357名	10	10 西市高等学校(山口) 112名	1	7	南部農林高校 283名	
7	24	育達高職(台湾) 75名	10	10 聖望学園高校(埼玉) 226名	26	26	大阪高校(大阪) 312名	
8	7	育達高職(台湾) 61名	14	14 菊地女子高校(熊本) 121名	2	1	大阪学院大学高校(大阪) 170名	
	9	興南高校 22名	14	14 仁愛女子高校(~15、福井) 584名	10	10	国際商工(台湾) 35名	
	16	浦添高校(~9/2) 668名	15	15 読谷高校 32名	14	14	首里高校 81名	
	21	那覇西高校(~9/2) 162名	15	15 中京高校(~17、愛知) 406名	15	15	横浜市立東高校(神奈川) 278名	
	28	開邦高校(~9/2) 259名	17	17 佐波高校(山口) 110名	3	1	正強高校(奈良県) 283名	
9	7	九州電気学園高校 239名	18	18 中商高校(愛知) 126名	1	1	大阪商業大附属高校(大阪) 535名	
10	12	東京高校(東京) 377名	22	22 宇都工業高校(山口) 315名	7	7	正則高校(東京) 46名	
	12	横浜工業高校(神奈川) 93名	22	22 知念高校 31名	9	9	佐野日大高校(栃木) 223名	
	18	信州工業高校(~19、長野) 312名	28	28 豊川高等学校(~30、愛知) 856名	3	12	光星野辺地工業高校(青森) 379名	
	18	比叡山高校(~19、滋賀) 429名	11	28 東京成徳深谷高校(~29) 450名	16	16	近畿大学附属高校(大阪) 91名	
	23	長崎高校(長崎) 46名	28	28 須磨ノ浦女子高校 549名				
10	27	精華女子高校(大阪) 322名	29	29 佐世保工業高校(長崎) 41名				

(大学. 専門学校) 1,782名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	19	沖縄キリスト教短期大学 7名	30	九州福祉医療専門学校(佐賀) 47名	10	18	沖縄キリスト教短期大学(~27) 89名	
	25	奈良工業高等専門学校 43名	7	18 多摩美術大学(東京) 43名	11	6	大塚末子きもの学院(東京) 80名	
5	1	沖縄国際大学 24名	18	18 情報産業専門学校(奈良) 24名	8	8	文化女子大学(東京) 47名	
	8	動医協看護専門学校 33名	19	19 千代田学園(東京) 254名	12	6	彦根技芸専門学校 151名	
	19	琉球大学 39名	9	1 東京基督教短期大学(千葉) 36名	2	7	長野県農業士学校(長野) 21名	
6	2	国際ソーリズム専門学校 88名	4	4 近畿大学(大阪) 96名	3	5	郡山女子短期大学(福島) 96名	
	14	沖縄県立芸術大学 28名	14	14 玉川大学(東京) 35名	5	5	西南学院大学(福岡) 32名	
	22	沖縄国際大学(~29) 44名	27	27 皇学館大学(三重) 63名	8	8	千葉大学(千葉) 26名	
	27	千代田学園(~28)(東京) 200名	28	28 鹿島田看護学校(神奈川) 27名				
	29	慈恵青戸看護専門学校(東京) 33名	29	29 九州福祉医療専門学校(福岡) 76名				

(特殊学校. その他) 747名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	22	森川養護学校 57名	24	24 あおぞら保育園 29名	18	18	城東幼稚園 8名	
5	16	那覇養護学校 24名	31	31 いしだ丘保育園 56名	11	7	城西幼稚園(~9) 123名	
6	7	沖縄盲学校 5名	31	31 大育保育園 31名	16	16	いしだ丘保育園 38名	
8	1	さわやか保育園 6名	31	31 しらさき保育園 11名	21	21	名護養護学校 16名	
	22	西原町翁長学童クラブ 16名	10	9 長田保育園(~19) 116名	3	5	みぎわ保育園 13名	
	23	城南学童クラブ 18名	11	11 長田学童保育所 16名	5	5	当蔵保育所 21名	

III 展示活動

1 常設展

展示室概観

展示室は1階に「歴史展示室」(考古・歴史)と「自然史展示室」がある。2階はロビーに常設展を兼ねた「企画展示室」と「美術工芸展示室」、それに「民俗展示室」がある。各展示室を結ぶ基本的な観客導線の順序は上に述べた順となっている。

歴史展示室(第1室)は、琉球列島の形成と旧石器時代、そして九州縄文文化の南下で開始された独自の展開をみせる沖縄貝塚時代の様子や、沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山諸島の原始・古代を展示した。12世紀からは、各地に支配者である按司が登場し、グスク時代が開始される。15世紀初期に沖縄は統一され、琉球王国が誕生する。琉球王国の海外貿易、外交状況、近世史の概要、近世の文化、さらに幕末、琉球処分、明治・大正・昭和の様相、沖縄戦といった通史的な流れが展示されている。

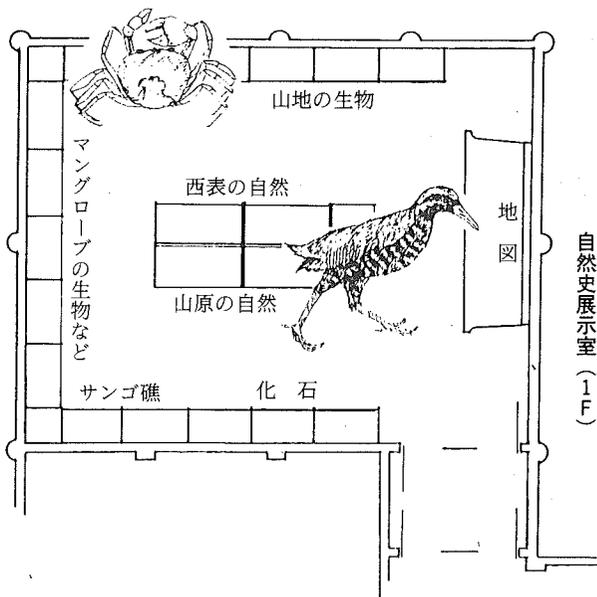
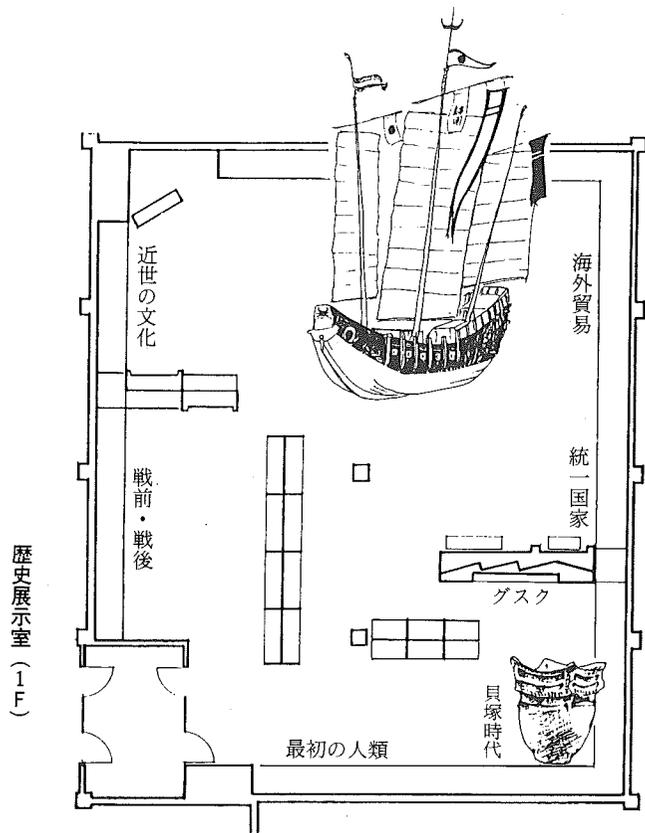
自然史展示室(第2室)は、琉球列島の成立および亜熱帯地域に広がる沖縄の自然について展示してある。ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、イリオモテヤマネコ、ヤンバルテナゴコガネといった、沖縄にしか生息しない動物をはじめ、「東洋のガラパゴス」と呼ばれる程多様な動植物を、それらが生息する環境ごとに整理し紹介している。また、豊かな自然をとどめる山原(沖縄本島北部)と西表島の自然についても、特設コーナーを設けて展示してある。

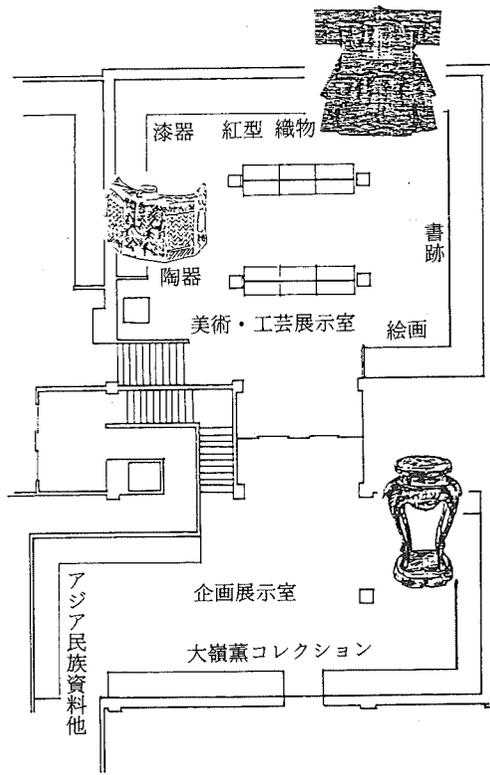
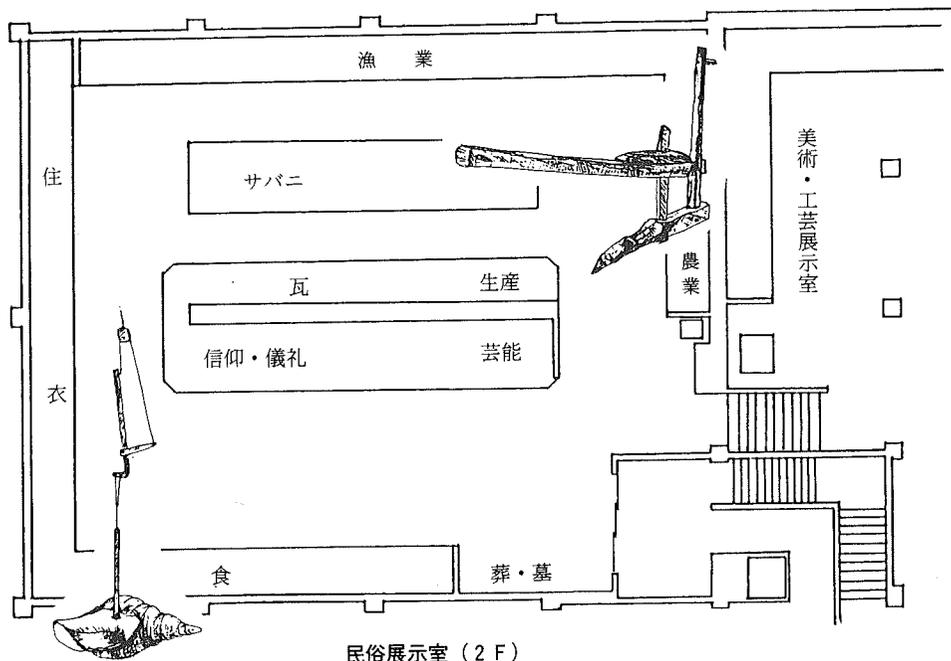
企画展示室(2階ロビー)は企画展・特別展に使用されるが、普段は当館が所蔵する「大嶺コレクション」や「東南アジアの民俗資料」「沖縄の楽器」などを展示した。

美術工芸展示室(第3室)は沖縄の代表的な文化資料である、絵画、書跡、漆器、陶器などが展示されている。わが国唯一の亜熱帯の風土と海外文化交流を背景に製作された美術工芸品は、沖縄の個性的な世界を表現している。

民俗展示室(第4室)は琉球列島の民俗資料を農業・漁業・衣食住・信仰・芸能・葬墓制などの分野に整理分類して展示してある。これらの生活用品を通して、沖縄の生活文化とその広がりを確かめることができる。

なお、1階ロビーには、首里城正殿前に掲げられていた「万国津梁の鐘」や首里城正殿模型をはじめ扁額などの展示がなされている。また前庭には、沖永良部島の高倉と円覚寺の鐘楼などが屋外展示されている。





2 企画展

平成元年度「新収蔵品展」

会 期：平成2年4月24日（火）～5月13日（日）

会 場：企画展示室

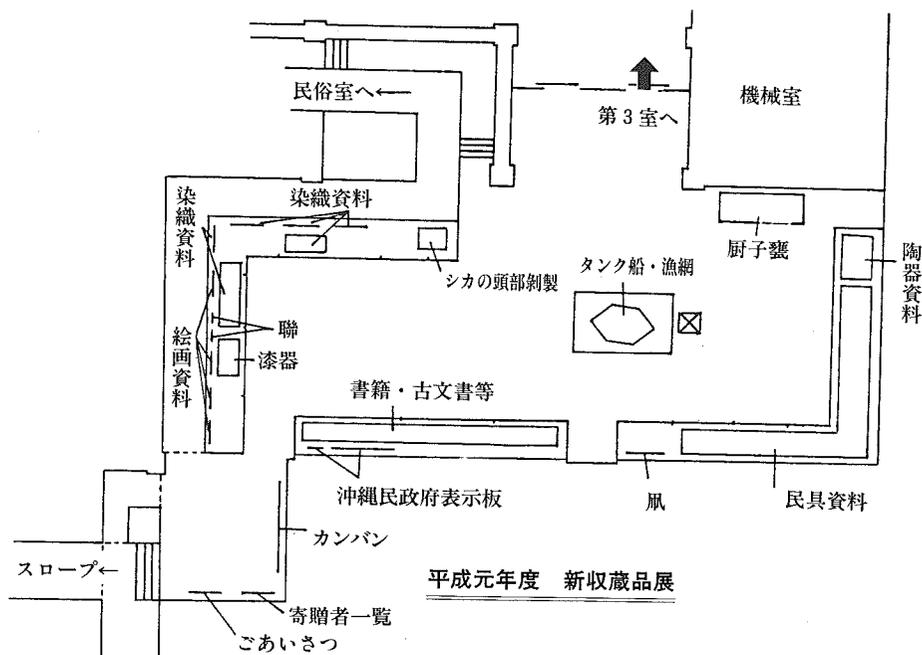
〔開催趣旨〕博物館では資料を収集、保管し、展示し、あわせて調査研究することが、大きな目的となっている。特に博物館資料の収集活動は展示部門を円滑にするうえで大切なことである。「新収蔵品展」は前年度に寄贈され、収集し、購入した資料を一堂に集め、広く一般に公開するとともに、今後の展示に役立てることを目的として実施するものである。

〔展示内容〕展示ケースを考古・歴史・自然史・美術工芸・民俗の各分野ごとに区切り、それぞれの分野でまとめて展示したが、展示スペースに限りがあるために、収蔵されたすべての資料を展示することはできなかった。

〔展示目録〕展示に際してパンフレット「平成元年度新収蔵品展」を刊行し、そのなかで主な展示物を写真で紹介するとともに、新収蔵品の全目録を掲載した。なお、同目録は、『沖縄県立博物館年報』No.23にも掲載されている。

寄贈の部：シカの頭部剥製・「円覚寺鐘楼」・聯・龍雲盛付達磨型大花瓶・沖縄民政府表示板
・パス回数券・ジュラルミン製洗面器・木挽鋸・三線箱・厨子甕他

購入の部：首里城の図・滝仙人・糸見本帳・中山王尚育王書簡他・『松風集』・『琉球玩具図譜』・『ベッテルハイム聖書琉球語訳』・漁具一式他



沖縄の野鳥展

会 期：平成2年8月16日（木）～9月2日（日）

会 場：沖縄県立博物館企画展示室及びスロープ

〔開催主旨〕 ヤンバルクイナの発見を契機として、本県でも野鳥への関心が高まり、各地で採鳥会、自然観察会等が催されている。しかしながらこれらの観察会では、野鳥への配慮から人数や観察時間が制限されている。また、かなり離れた場所からの観察のため、野鳥の特徴がよくつかめず野鳥についての理解が今ひとつ進展しない面がある。そのため実物の標本を間近にみながら、野鳥についての理解を深める展示会は、野外観察会を補足する意味からもきわめて有意義なことである。本展示会は沖縄に生息する野鳥について実物標本や写真パネルで紹介し、沖縄の野鳥相の特徴などについて解説することにより沖縄の野鳥と自然に対する関心を高揚させ、自然保護意識の向上に寄与することを目的として開催した。

〔開催形式〕 当館が主催し、株式会社沖縄フジカラーの協力で開催した。

〔展示内容〕 沖縄の代表的な留鳥や渡り鳥について実物標本や写真パネルで紹介しながら、沖縄のユニークな野鳥相の特徴、貴重な野鳥が生き残ってきた原因などについて分かりやすく展示解説した。同時にいくつかの小コーナーを設置し、野鳥を識別するポイント、くちばしや足の形と野鳥のくらし、羽毛の種類とはたらき、天然記念物指定されている野鳥などについて、実物標本をもとに解説した。

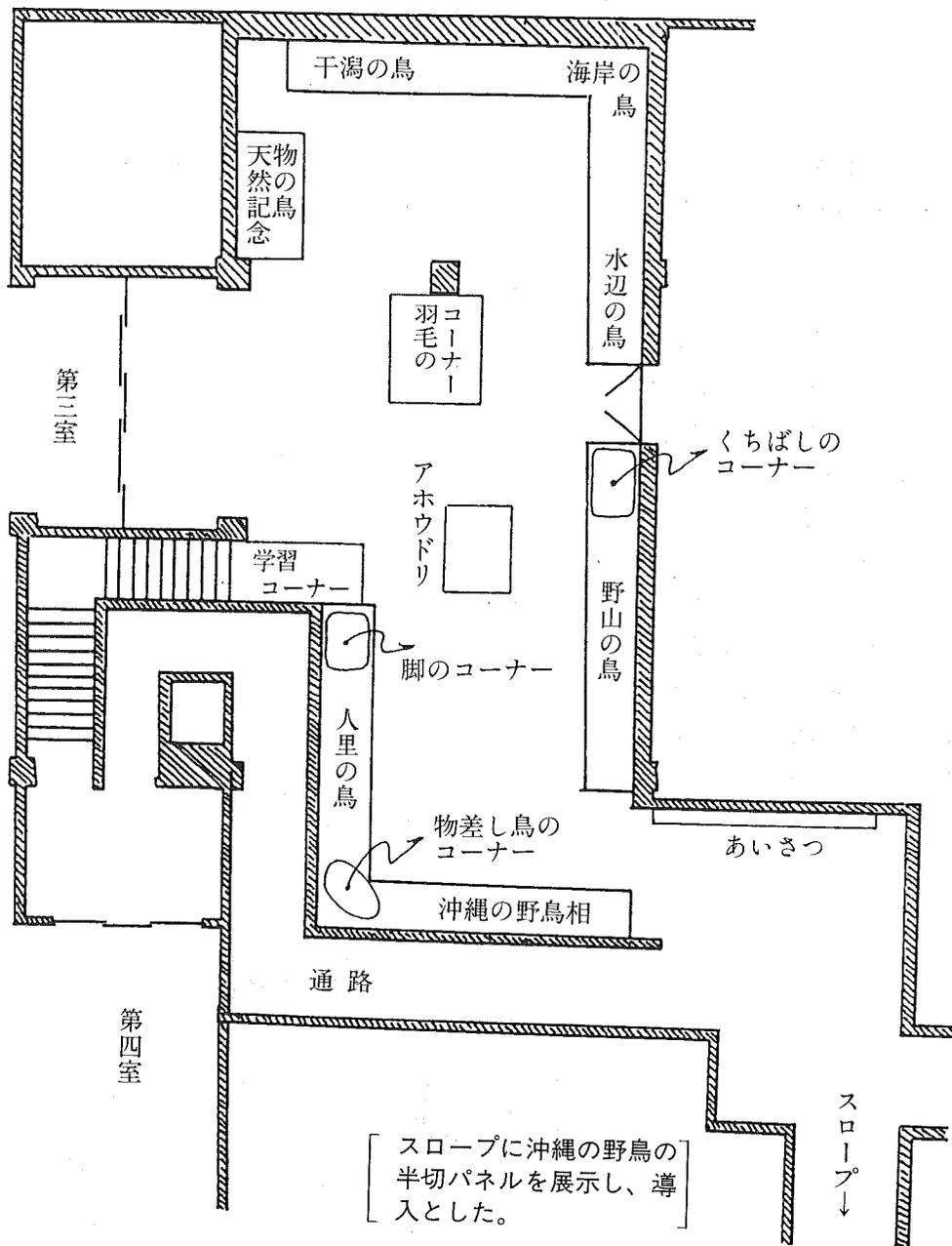
〔展示目録〕 展示された剥製は71種125点、55種59点の生態写真及び9点の環境写真パネルを展示し、全体で92種の野鳥を紹介した。主な留鳥の剥製標本はノグチゲラ、ヤンバルクイナ、カラスバト、シロハラクイナ、バン、ツルクイナ、リュウキュウヨシゴイ、ヒヨドリ、イソヒヨドリなど。また主な渡り鳥の剥製標本はアマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、クロサギ、アオサギ、ムラサキサギ、ヤマサギ、アマミヤマサギ、キンクロハジロ、コガモ、サシバなどであった。主な生態写真パネルはアカハラダカ、アマサギ、エリグロアジサシ、キアシサギ、セッカ、メジロなど。

〔付記〕 展示を補う意味で、県内の主要な採鳥地を紹介した図録「野鳥はともだち」を刊行し、開催期間中に当館の文化講座として「スライドウォッチング沖縄の野鳥」と題した講演会を開催した。



1990年8月16日、沖縄の野鳥展オープン

沖縄の野鳥展 展示レイアウト



沖縄の祭り

会 期：平成2年11月1日（木）～11月25日（日）

会 場：企画展示室およびスロープ

〔開催趣旨〕祭りは、その時どきの人びとの生活や信仰と深く結びついて行われるため、時代とともに変容していく性格のものである。県内各地には、今なお数多くの伝統的な祭りが行われており、私たちの生活のなかで祭りは欠くことのできないものである。企画展「沖縄の祭り」を催すことにより、祭りに関する関心を高揚し、認識を深め、私たちの生活との関わりをなかで、祭りとは何かを考える機会としたい。

本展示会では祭りに使用される道具や衣装、楽器、および写真、古文書資料等を展示紹介し、ビデオテープや16mmフィルム等による祭りの記録映画を鑑賞することにより、沖縄の祭りの特徴をとらえる。

なお、本展示会の資料は、平成元年度に実施した生涯教育推進事業「沖縄の祭り」に基づくものである。

〔開催形式〕当館・沖縄タイムス・琉球放送の共催、沖縄フジカラーの協力を得て実施した。

〔展示内容〕展示の考え方として、次の3点に留意した。①祭りの基本構造をなす「準備」「籠り」「神迎え」「神遊び（人神交歓）」「神送り」で展示を構成する。②祭りの道具や衣装、楽器等の有形の資料を展示し、あわせて各地の代表的な祭りを写真パネルで紹介しながら、沖縄の祭りをわかりやすく紹介する。③ビデオテープや8mm・16mmフィルム等による映像資料を使用して映写会を行い、その鑑賞会をとおして沖縄の祭りの全体象をとらえる。

主な展示物は、道具——旗頭、角皿、ピンシー、仮面等。衣装——神衣装、エイサー・踊りの衣装。楽器——太鼓、鉦、銅鑼、法螺貝、三味線。写真パネル——旧正月、ハチウクシ、シヌグ、ウンジャミ、ヤガンウイミー、三月遊び、綱引き、ハーリー、ミャークツツ、パントゥ、豊年祭り、マユンガナシィ、種子取祭、カンブナガ等約50枚。

〔展示目録〕図録は、平成元年度に実施した生涯教育推進事業「沖縄の祭り」の報告書『沖縄の祭り』を使用した。本書は4章で構成されている。「1.沖縄の祭り」では、人びとの生活との関わりで、祭りとは何かを考える。「2.おもな祭り」では、県内各地から40の祭りを選出し、写真とともに内容を紹介。「3.各地の祭り」では、県内各地の祭りを1月から順に整理し、一覧表にした。体裁はB5版、114頁、写真100枚（うち、カラー10枚）。

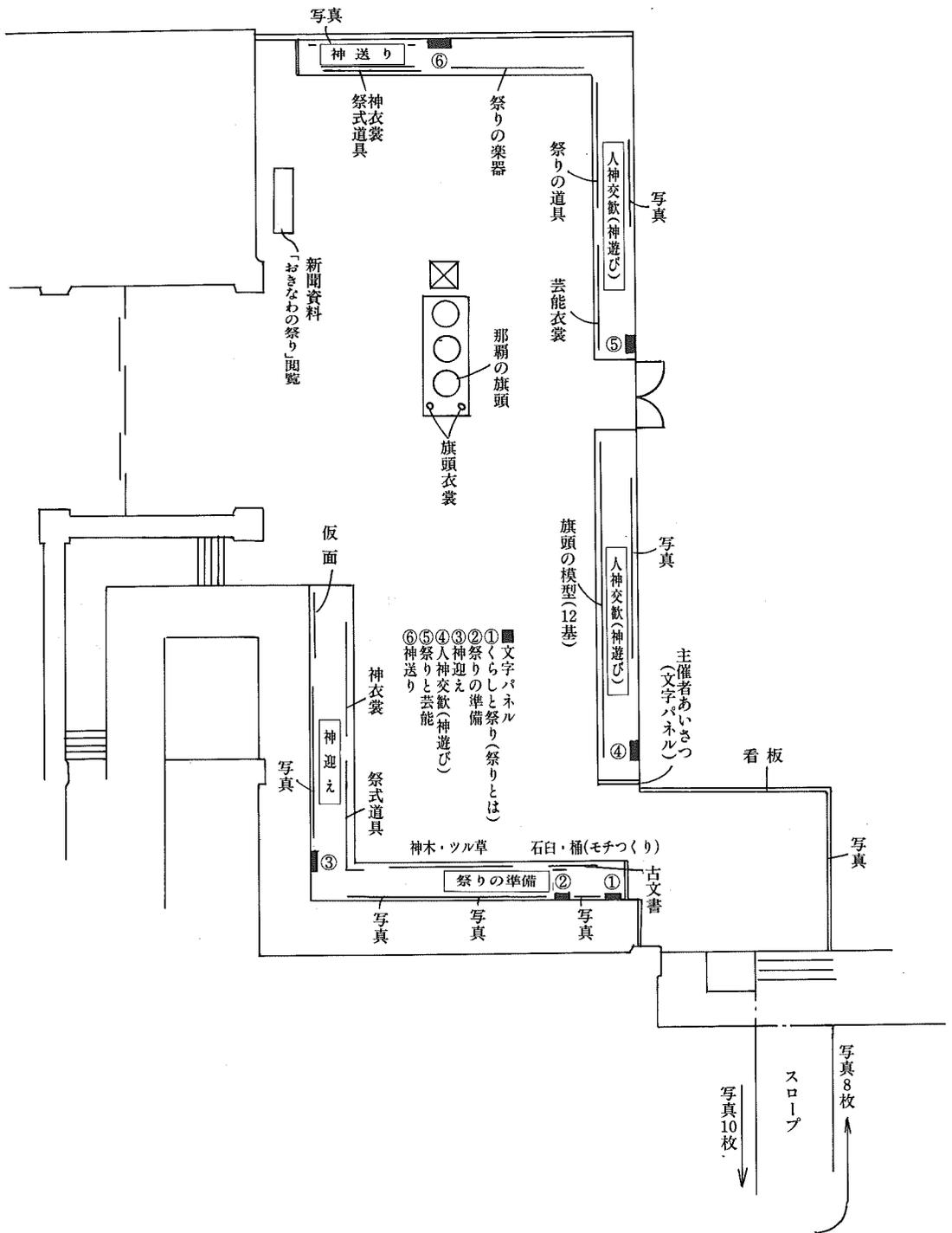
〔映画上映〕展示期間中、関連催し物として土曜日と日曜日に祭りの記録映画を上映した。1月3日（土）：津嘉山の綱引き（16mm、50分）、4日（日）：塩屋・比地のウンジャミ（8mm、30分）／多良間島の豊年祭り（16mm、30分）／沖縄久高島のイザイホー（16mm、100分）10日（土）：久高島のイザイホー（16mm、50分）、11日（日）：多良間島の豊年祭り／津嘉山の綱引き／沖縄久高島のイザイホー、17日（土）：塩屋・比地のウンジャミ／多良間島の豊年祭／久高島のイザイホー、18日（日）：沖縄久高島のイザイホー／塩屋・比地のウ

ンジャミ／津嘉山の綱引き、24日（土）：塩屋・比地のウンジャミ／多良間島の豊年祭／
久高島のイザイホー、25日（日）：多良間島の豊年祭／津嘉山の綱引き／沖縄久高島のイ
ザイホー



「沖縄のまつり」テープカット

「沖縄の祭り」展示会



技と美 一大城志津子の世界一

会 期：平成3年2月5日（火）～2月17日（日）

会 場：企画展示室、第3展示室

〔開催趣旨〕 沖縄の織物は素材、技法が多岐にわたっており、また自然の恩恵を受けた色彩は、他府県にはみられないものがあり、日本の織物の中でも特異な地域を形成している。現在の沖縄織物への高い評価は、長い歴史の中で生まれ伝えられた技法・色彩に対するものであると言えよう。

このような、沖縄の織物をいかに後世に伝えていくかを考える時、忘れてはならない人物が故大城志津子氏（1931～1989）である。大城氏は、琉球大学、県立芸術大学で教授として教鞭を取るかたわら、沖縄の伝統織物の復興と研究に多大な功績を残している。また、昭和49年、県指定無形文化財（工芸技術）〔本場首里の織物〕の保持者に認定され、さらに沖縄県文化財保護審議会専門委員、沖縄県工芸産業振興審議会委員、沖縄県工芸技術アドバイザーとして、本県の文化行政へ寄与するなど、その業績は高く評価されている。

このたび、大城氏のご遺族のご厚意により、氏が生涯にわたって調査・研究及び制作された資料が沖縄県立博物館に寄贈された。寄贈品の大半は、昭和37年那覇市儀保の工房を開設し、死去されるまでの25年間に制作された作品及び図案である。また、「御絵図」資料及び収集品は氏の織物研究の基礎をなすものである。これら寄贈品からは、大城氏の沖縄織物の復興と研究に尽きた生涯と、伝統に基づきながらも常に新しいスタイルを追求し続けた創作姿勢がうかがい知れる。

大城氏は生前、将来の沖縄織物の在り方について数々の提言を行っており、これらの資料が公開されることは、氏の意志であり、今後の沖縄の発展に多いに寄与できるものである。さらに氏の偉業を顕彰する意味でも意義深い展示会である。

〔開催形式〕 当館が主催し、石垣市八重山博物館と大城志津子氏の弟子の会である志織の会が協力した。

〔展示内容〕

企画展示室

「新しい沖縄の織を求めて」

図案・素材や技法の異なる作品・染織ノート・染織見本の糸

「世界の染織を求めて」

大城氏が生前に集めていたコレクションから絁を中心に展示

「沖縄の古典を探る」

復元した古作品とその図案・復元した御絵図資料

「書籍・新聞切り抜き閲覧コーナー」

大城氏関連の新聞切り抜きや大城氏の作品集・展示会図録の閲覧コーナー
その他、大城氏使用の地機を展示。

第三展示室

「大城志津子の世界」

大城氏の作品を初期・中期・後期の年代で区切って展示

〔展示目録〕

「新しい沖縄の織を求めて」

写真パネル・略年譜・染織ノート・染織見本糸・図案・絹紺地総緋着物・芭蕉手稿着物・絹紺地ロートン織着物・絹赤紫地花倉着物・絹灰色ずらし二重織帯・裂地他

「世界の染織を求めて」

麻白地総緋着物・芭蕉格子着物・麻紺地経縞に緋着物・芭蕉緋ティサージ・衣装（タイ）台湾蕃布・インドネシアの緋布・インドの緋布・古裂他

「沖縄の古典を探る」

絹総花織着物・絹焦茶総緋着物・麻紺地総緋着物・麻の糸見本・図案・復元した御絵図・御絵図の裂地・地機とその他の道具

「書籍・新聞切り抜き閲覧コーナー」

『大城志津子の作品集』・図録『沖縄の染織三人展』・図録『そめおりの美顕彰四人展』

「大城志津子の世界」

写真パネル・絹白地手稿着物・絹紺地経縞に経緯緋着物・絹緑地格子に経緯緋着物・絹紺地経縞に経緯緋着物・木綿紺地経縞に経緋帯・絹黄色格子着物・絹灰色地やしらみ織着物・絹茶色地格子に花織着物・絹紺地経縞に経緯緋着物・絹灰色地格子着物・絹白地花織ティサージ・木綿紺地花織ティサージ・木綿白地花織ティサージ・芭蕉黄色地経縞に経緯緋着物・絹浅地紹織着物・絹紺地格子に緋読谷山花織着尺反物・麻紺地経縞に経緯緋着物・絹白地総緋着物・絹朱地格子に経緯緋着物・絹紺地総緋着物・絹紺地経浮花織着物・絹紺地手稿着物・絹白地経縞に経緋グーシバナ織帯・絹茶地経縞に経緋グーシバナ織帯・絹朱地緯緋帯・絹橙色地格子に経緯緋着物・絹紺地総花織着物・絹赤紫地ぼかし花織着物・絹緑地市松緋に花織着物・絹紺地花倉織着物・絹黄色地経ずらし緋服地・タピストリー「弦月」・タピストリー「未知」・タピストリー「瑞」・タピストリー「精霊」・タピストリー「萌芽」・裂地他
別途作成の図録は、大城氏の作品と図案を中心とした構成で、展示とは一致していない

〔付記〕この企画の開催中、関連催しとして「展示解説会」（平成3年2月9日）・講師：多私田淑子（染織家）も開催された。（文化講座の頁を参照）

なお、石垣市八重山博物館で3月5日～17日の期間で巡回展を開催した。

3 移動博物館

第14回移動博物館

会 期：平成2年6月9日（土）・10日（日）

会 場：北大東村離島振興総合センター

観覧料：無料

共 催：沖縄県立博物館、北大東村、北大東村教育委員会

〔趣旨〕当館を利用するに不便な離島や遠隔地において、博物館活動を公開し、参加することによって、文化の広域普及をはかることを目的とする。第14回は北大東村において開催した。

〔内容〕博物館資料の展示とビデオ放映を会場にて行い、講演会は村立北大東小中学校で催した。展示は自然、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野別とし、それに戦前の沖縄の風景を写した写真パネルを加えた（展示目録参照）。

〔ビデオ放映〕「琉球の風物」、「琉球の工芸」、「酒だ忍法コノハチョウ」、「ノグチゲラは生き残れるか」他

〔講演会〕

日 時：平成2年6月9日（土）午後2時～4時

場 所：村立北大東小中学校体育館

演 題：「大東島の植物－熱帯・亜熱帯の植生－」

講 師：宮城康一（琉球大学理学部生物学科講師）

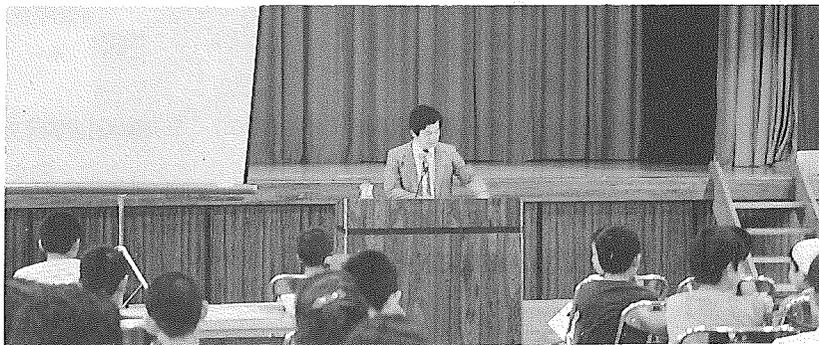
〔入場者数〕

展示会 143 (小人)	153 (大人)	計 296
--------------	----------	-------

講演会 53 (小人)	54 (大人)	計 104
-------------	---------	-------

合計 400人

〔予算〕国庫補助を得て総額3,710,179円で、内訳は報償費(8,000円)、費用弁償(45,590円)旅費(524,220円)、消耗品費(96,809円)印刷製本費(236,329円)、通信運搬費(2,799,231円)



講演会風景

展 示 品 目 録

〈古生物〉－【5点】

マンモス（全身骨格）、プロトケラトプス（全身骨格）、プロバクトロサウルス（全身骨格）、恐竜の卵の化石、世界最古の化石“コレニア”

〈沖縄の生物〉

写真パネル〔沖縄の天然記念物（動物）〕－【21枚】

ヤンバルクイナ、ヤンバルテナゴコガネ、ケナガネズミ、ノグチゲラ、他3点

動物剥製－【18点】

イリオモテヤマネコ、ダイトウオオコウモリ、オリオオコウモリ、コガモ、ヤンバルクイナ、アカショウビン、ヤマシギ、ホウロクシギ、キンクロハジロアオバト

昆虫標本（沖縄の代表的な蝶類）－【10箱】

アゲハチョウ科、タテハチョウ科、シロチョウ科、シジミチョウ科、他約100点

〈絵画〉－【3点】

魚売りの図（筆者不詳）、風俗図（筆者不詳）、沖縄風景絵図（宮崎東里筆）

〈書跡〉－【2点】

「海不揚波」（古波蔵爾方書）、和歌（宜湾朝保・高崎正風・八田朝紀書）

〈織物〉－【3点】

絹・木綿紺地手織上衣、木綿紺地花織ティサージ〔2点〕

〈紅型〉－【3点】

麻浅地霞に鶴亀松竹梅文様衣裳、紅型型紙〔2点〕

〈漆器〉－【2点】

朱漆巴紋牡丹七宝繫沈金食籠台、黒漆山水楼閣螺鈿六角食籠

〈陶器〉－【8点】

家紋入嘉瓶、アンダガーミ、赤絵鶴松竹文徳利、釘彫唐草文からから、赤絵撫子文碗、線彫竹梅小鳥文抱瓶、線彫海老文皿（金城次郎作）、獅子（島 常賀作）

〈彫刻〉－【1対】

玉陵石彫獅子（レプリカ）

〈歴史〉

拓本－【12点】

万国津梁之鐘銘、円覚禅寺記、国王頌徳碑（嘉靖元年・1522年）、琉球新建国学碑文（裏・表）、新修美栄橋碑記（表）、山北今帰仁監守来歴碑記（表）、崇元寺之前之碑文〔下馬碑（裏・表）〕、ようとのれのひのもん（裏・表）、万歳嶺記、その他

古銭類（琉球通宝、金円世宝、鳩目銭など）－【40点】

曲玉類－【47点】

〈考古〉

港川人頭骨（レプリカ）、荻堂式土器、大山式土器、カヤウチバンタ式土器ー【4点】

石器類（磨石、叩石、凹石、石斧）ー【6点】

〈民俗〉

農具・着用具ー【8点】

ティール、ミーゾーキ、ウブル、ペーラ、ホーチ、あだん葉サバ、ワラジ、アジマックワ

漁具ー【5点】

ユートゥイ、ミーカガン、タマウーキ、チズカ、モリ、權

凧ー【10点、〔但し凧（8点）フータン（2点）〕】

龍凧、八角凧、フータン、宮古凧、日の出凧、ヤカジ凧、八重山角凧

玩具ー【5点】

獅子メーサ、ホートゥグワー、ジュリグワーブトゥキ、コイ乗り童子、按司

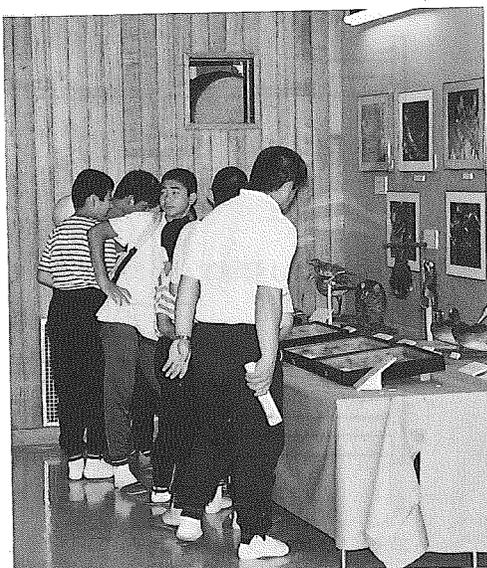
楽器〔三線（2点）、工工四、ツメ〕ー【4点】

〈戦前の沖縄（写真パネル）〉ー【25点】

首里城守礼門、首里城歓会門、園比屋武御獄石門、円覚寺山門、弁ヶ獄大獄石造拝殿、首里城正殿、首里城白銀門、首里那覇全図、玉陵、競馬、闘牛、市場、農家、葬列、サーターヤー、カーミ市、辻原の亀甲墓、魚市場、機織り、布市場、魚売り、壺屋の陶工、臼作り、首里城南殿、首里城北殿、竹箆店



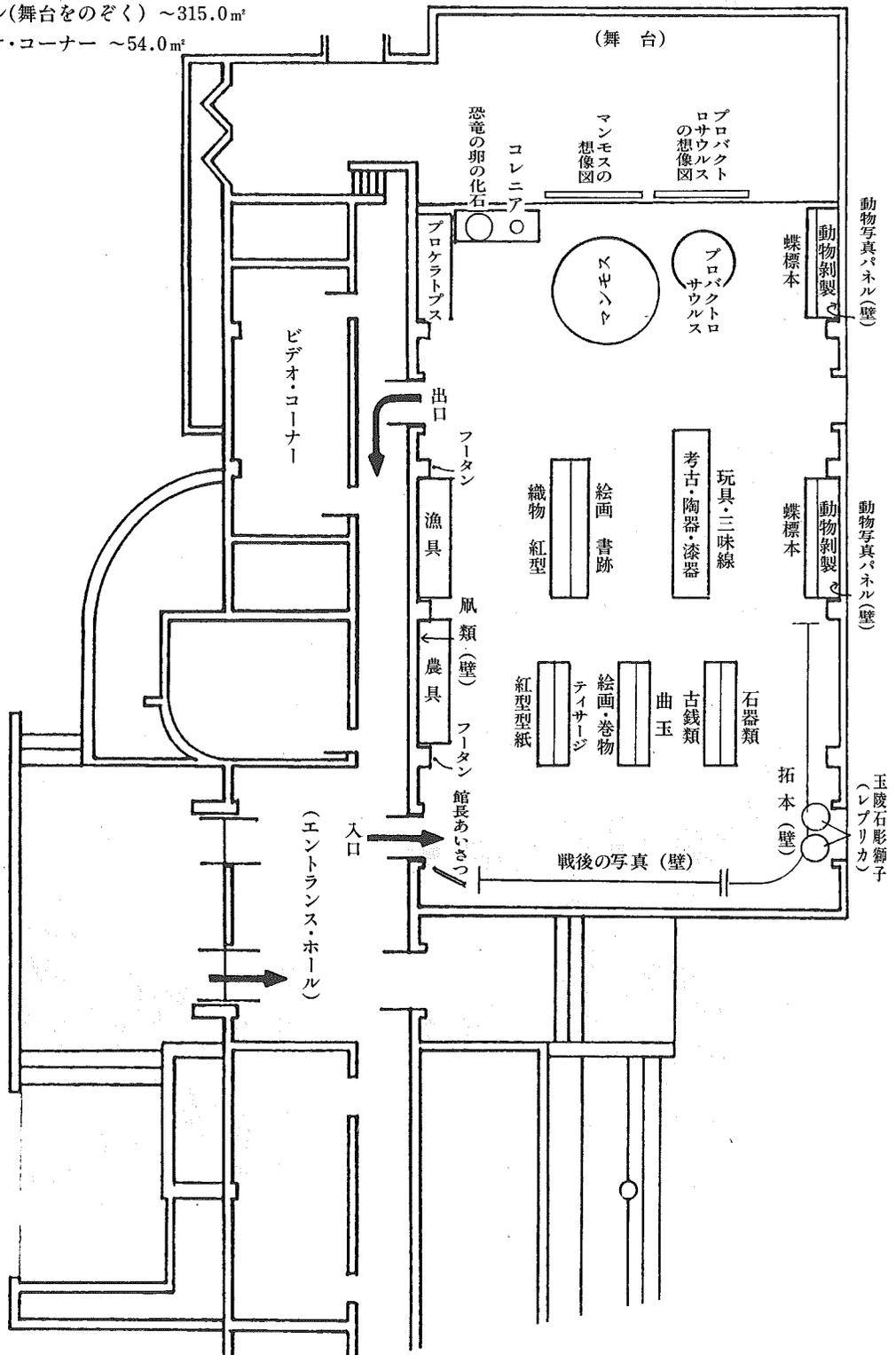
展示風景



展示風景

第14回移動博物館展示略図
 (北大東村離島振興総合センター)

- ①ホール(舞台をのぞく) ~315.0m²
- ②ビデオ・コーナー ~54.0m²



IV 教育普及活動

博物館活動の大きな柱である教育普及活動については、生涯学習時代に向けて学校教育、社会教育との関連を考慮にいれながら本年度も内容の充実を目指して活動してきた。

本県は、亜熱帯の特異な自然に彩られ、本土とも遠く離れていたために独自の歴史をあゆみ、特色ある歴史と文化を形成してきた。この特性のある本県の自然・歴史・文化について博物館資料を通じて広く県民に認識していただくために平成2年度に実施してきた教育普及活動には次のような事業があった。

- 1、博物館文化講座(14回)
- 2、移動博物館(北大東村)
- 3、『高校生のための博物館学習ノート』の編集・発行
- 4、ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だより等の編集・発行
- 5、観覧者への展示室解説
- 6、児童生徒団体見学者へのオリエンテーション
- 7、団体観覧者へのビデオの放映
- 8、博物館事業のマスコミなどへの広報
- 9、友の会事業への指導や援助

1 博物館文化講座

- 第188回 「グスクの見方・調べ方」平成2年4月28日(土) 参加者 89人
講師:当真嗣一(沖縄県立博物館主幹兼教育普及課長)
内容:OHPやスライドを使用して、グスクの縄張りについて解説した。
- 第189回 「宮古の歌謡」5月19日(土) 参加者 40人
講師:新里幸昭(沖縄県立中部商業高等学校教諭)
内容:狩俣の祭祀歌謡を中心に、宮古の歌謡について解説した。
- 第190回 「選挙制度を通して見た沖縄戦後史」6月16日(土) 参加者 26人
講師:波平常則(西原町役場企画課係長)
内容:戦後の米軍統治下における選挙制度を通して、沖縄の戦後史をあとづけた。
- 第191回 「清水貝塚の発掘成果ー主に貝製品についてー」7月21日(土) 参加者47人
講師:盛本 勲(沖縄県教育庁文化課専門員)
内容:久米島清水貝塚の発掘成果を、スライドを使いながらわかりやすく解説した。
- 第192回 「スライドウォッチング 沖縄の野鳥」8月11日(土) 参加者87人

- 講師:高原健二(沖縄県教育庁文化課指導主事)
 内容:県内でみられる野鳥たちをきれいなカラースライドで紹介した。
- 第193回 「収藏品解説会～花織～」 9月22日(土) 参加者 48人<定員>
 講師:祝嶺恭子(沖縄県立芸術大学教授)
 内容:当館収蔵の織物の中から「花織」について、見ながら解説した。
- 第194回 「収藏品解説会～灰釉碗の話～」 10月20日(土) 参加者44人 <定員>
 講師:池田栄史(琉球大学法文学部助教授)
 内容:当館収蔵の灰釉碗を見ながら説明した。
- 第195回 「沖縄の祭り」 11月3日(土) 参加者46人
 講師:崎原恒新(越来中学校教諭)
 内容:県内各地の祭りを8フィルムを使ってわかりやすく解説した。
- 第196回 「親子民具教室～凧つくり～」12月2日(日) 参加者 50人<親子20組>
 講師:外原 淳(沖縄玩具伝承友の会主宰)
 内容:竹、紙、のり、ひもなどを使って沖縄の凧を作った(体験学習)。
- 第197回 「ヤモリあれこれ」平成3年1月19日(土) 参加者 56人
 講師:太田英利(琉球大学理学部助手)
 内容:沖縄にすんでいるヤモリを中心に、ヤモリの不思議な生態を紹介した。
- 第198回 「展示解説会～大城志津子の世界～」 2月9日(土) 参加者 53人<定員>
 講師:多和田淑子(染織家)
 内容:大城志津子氏の作品と人となりについて解説した。
- 第199回 「掘り出された北谷グスク」 3月16日(土) 解説者 90人
 講師:中村 愿(北谷町教育委員会主事)
 内容:北谷グスクから掘り出された遺物・遺構について、スライドを使って解説した。



第198回文化講座
 講師：多和田淑子氏

2 博物館学習ノート

高校生のための「博物館学習ノート」の作製について

昭和63年度小学生のための「博物館学習ノート」、平成1年度中学校のための「博物館学習ノート」を作製し、県内の小・中学校に配布した。各学校では、博物館での郷土学習の資料として利用している。その成果を踏まえ、平成2年度は高校生のための博物館学習ノートを作製し、小・中・高一貫した博物館館内学習ができるようにした。

〈作製のための基本姿勢〉 ① 各展示室の常設展示物の中から各展示室毎に学習する視点を明確にし、作業をしながら展示内容が学習できるような学習ノートにする。② 高等学校における博物館での郷土学習の啓蒙および充実発展をはかる。③ 高等学校における校外学習、ゆりの時間の利用、教科学習への援助、社会見学、調査研究などに役立てる。④ 県内の全高等学校・関係機関等に配布し、それを利用することで博物館館内学習への一層の理解と認識を深める資料とする。

〈作製のとりくみ〉 ① 学習ノートの作製を円滑にするために、学芸員と作製協力委員(下記)で合同委員会と各部会を設置した。合同委員会は学芸員と作製協力委員で組織し、作製についての全体確認、部会報告情報交換等を行う場とした。部会は、常設展示室に対応させ、歴史・考古部会、自然史部会、美術工芸部会、民俗部会にした。部会では、小・中の学習ノートを踏まえ、各展示室の展示内容から学習項目・学習内容を検討する。検討された事項を基に学芸員で原稿を書く。② 合同委員会2回(6月、11月)、各部会4回(6月、7月、10月、11月)行った。③ 模擬授業の実施(11月)。各部会で作製した学習および表現等が適切であるかどうかを検討するための模擬授業を実施した。模擬授業は開邦高校理数科1年40名の生徒を10名1グループ、4つのグループに分け展示室毎に実施した。授業終了後生徒たちを交えて意見交換をしそれを原稿に反映させた。

作製協力委員

民俗部会 …… 津波高志(琉球大学)、前川守夫(前原高)、野原廣亀(知念高)
自然史部会 …… 新城和治(琉球大学)、宮城仙和(開邦高)
歴史考古部会 …… 田港朝昭(琉球大学)、宮城長信(普天間高)、島袋宏(真和志高)
美術工芸部会 …… 稲嶺成祚(琉球大学)、喜村朝貞(首里高)

〈学校での利用について〉

県内の各高等学校に生徒数に応じて数十冊無料配布した。学校においては、授業の一環として、事前・事後学習もしくは生徒たちの自主学習のための学習ノートとして活用し、郷土史の学習教材として利用していただければ幸いです。

小・中・高校生のための博物館学習ノートの内容比較

	小学生	中学生	高校生
学 習 内 容	表紙・写真ヤンバルクイナ 裏表紙・館長あいさつ 目次 博物館のご案内 第一室 歴史展示室 (リード文)・沖縄の化石人たち 貝塚人たちの生活 グスクについて 宮古・八重山のむかし 王国のなりたち 海外交流 I 海外交流 II 第二室 自然史室 (リード文) すきなものはなんでしょう 海岸の生きもの 毒ヘビのハブについてしらべよう 山の植物と動物 第三室・美術工芸 (リード文) 絵画 書跡 織物 紅型 漆器 陶器 絵画 書跡 織りの着物 紅型 漆器 陶器 第四室 民俗展示室 畑仕事・田仕事 海の仕事 衣・食 住まいとくらし 指導される先生方やご父兄の皆さまへ	表紙・写真・シーサー 裏表紙・館長あいさつなし 目次 博物館の案内 第1室 歴史展示室 (リード文)・沖縄の化石人たち 貝塚人たちの生活 グスクについて 宮古・八重山のむかし 安司の発生と王国の成立 海外交流 I 海外交流 II 薩摩の侵攻と江戸上がり 近代沖縄の出発 第2室 自然史室 (リード文) 島々のおいたち 海岸の生きもの マングローブ林の生きもの 展示室の動物を分類してみよう 第3室 美術工芸室 (リード文) 絵画 書跡 織物 紅型 漆器 陶器 第4室 民俗展示室 農具 運搬 漁具 食 住 祭り この本の利用の仕方	表紙・図・首里城図一部 裏表紙・館長あいさつなし 目次 博物館の案内 第1室 歴史展示室 (リード文)・歴史年表 沖縄の化石人たち 貝塚時代 グスク時代 宮古・八重山諸島の先史時代 三山時代と琉球王国の成立 大交易時代と琉球王国 冊封体制と進貢貿易 薩摩の侵攻と江戸上がり 近代沖縄の出発 現代への胎動と沖縄戦 第2室・自然史 (リード文) 琉球列島のおいたち 生物の地理分布 沖縄県の天然記念物 海岸の生きもの 第3室 美術工芸 (リード文) 絵画 書跡 織物 紅型 漆器 陶器 第4室 民俗 田畑の生活 海の生活 山の生活・山・狩猟・運搬・ 人生儀礼 生徒の皆さん、先生方、御父母の皆さんへ 学習ノートの利用の仕方 博物館に関する豆知識 裏表紙・学習風景写真

V 調査研究活動

1 調査研究

知念 勇(学芸課長)

○瀬戸内町加計呂麻島の陶磁器調査

期 間:平成3年3月11日～13日

目 的:瀬戸内町加計呂麻島の陶磁器調査

依頼機関:瀬戸内町教育委員会

當 真 嗣 一(主幹兼教育普及課長)

○竹富町のグスク調査

期 間:平成2年10月29日～30日

○フルスト原遺跡の調査

期 間:平成2年11月30日～12月1日

依頼機関:石垣市教育委員会

○北部グスク調査

期 間:平成3年2月22日

上 門 清 春(充指導主事)

○古宇利島における倍脚類と陸産貝類の調査

期 間:平成3年1月10日～11日

目 的:古宇利島の倍脚類と陸産貝類相を明らかにするため

依頼機関:沖縄県立博物館

成 果:「沖縄県立博物館総合調査Ⅷー古宇利島ー」に掲載

千木良 芳 範(充指導主事)

○古宇利島における真正クモ類調査

期 間:平成2年12月～平成3年1月

目 的:古宇利島の真正クモ類についての分布調査

依頼機関:沖縄県立博物館

成 果:「沖縄県立博物館総合調査Ⅷー古宇利島ー」に掲載

○ダイトウオオコウモリ調査

期 間:平成2年6月～平成3年3月

目 的:国指定天然記念物であるダイトウオオコウモリの保護のための基礎資料を収集する

依頼機関:沖縄県教育庁文化課

成 果:調査の最終年度に報告書を作製する

○キクザトサワヘビ調査

期 間:平成2年6月～平成3年3月

目 的:県指定天然記念物であるキクザトサワヘビの保護のための基礎資料を収集する

依頼機関:沖縄県教育庁文化課

成 果:調査の最終年度に報告書を作製する

○名護市動植物総合調査

期 間:平成2年8月～平成3年3月

目 的:名護市の動物相について基礎的な資料を収集する

依頼機関:名護市教育委員会

成 果:最終年度にその成果を名護市天然記念物調査報告としてまとめる

大 城 學(専門員)

○古宇利島の民俗調査(沖縄県立博物館総合調査)

期 間:平成2年9月6日・7日/平成3年1月10日・11日

目 的:古宇利島の祭場と儀礼について調査し、基礎的な資料を収集する

成 果:『沖縄県立博物館総合調査Ⅷ-古宇利島-』に掲載

○沖縄の神歌伝承活動調査

期 間:平成2年6月～平成3年3月

目 的:本部町字伊野波の祭祀<シニグイ>、および国頭村字比地の祭祀<ウンジャミ>
でうたわれる神歌の調査をした

依頼機関:沖縄県教育庁文化課

結 果:報告書『沖縄の神歌(Ⅳ)-沖縄本島<1>-』に掲載

○県内所在琉球三味線調査

期 間:平成2年6月～平成3年3月

目 的:県内各地に所在する三味線及び関連資料の調査。与那国島、伊是名島、伊平屋島の
調査に参加した

依頼機関:沖縄県教育庁文化課

結 果:調査の最終年度(平成4年度)に報告書を刊行する

○沖縄地域の産業活性化に関する調査研究

期 間:平成2年7月～平成3年3月

目 的:南西地域における産業の活性化を図るため、国際交流についての可能性に関する
調査研究を行い、産業の活性化を総合的に推進し、沖縄経済の発展に寄与するこ
と。タイ、インドネシア、シンガポールで調査をした

依頼機関:(財)南西地域産業活性化センター

結 果:『沖縄地域の産業活性化に関する調査研究報告書』に掲載

萩 尾 俊 章 (学芸員)

○泡盛の文化史調査

期 間:平成2年8月～平成3年3月

目 的:沖縄特産の酒「泡盛」についての基礎資料を収集する

結 果:『あわもりーその歴史と文化ー』として刊行

2 著作論文

知 念 勇

○「輻輳する南西諸島の文化ー九州起源だけでは解けない文化様相」『歴史群像特別編集』
学習研究社 平成2年7月

○「グスクを歩く」琉球新報 平成3年3月

○「旧石器時代の南島」「縄文文化と南島」「弥生文化と南島」「グスクの成立とその背景」
『日本文化を考えるー北と南からの視点』琉球新報 平成3年3月15日～3月18日

○「県内所在の和鏡について」『沖縄県立博物館紀要』第17号 平成3年3月

當 真 嗣 一

○「各地域の製錬・鍛冶遺構と鉄研究の現状ー沖縄ー」『日本古代の鉄生産』たたら研究会編
六興出版 平成3年1月

○「いま甦る首里城」『月刊 文化財発掘出土情報』通巻99号 ジャパン通信社 平成3年3月

上 門 清 春

○「特殊動物の宝庫沖縄島ー東洋のガラパゴスを探訪しよう」『採集と飼育』第55巻5号財
団法人日本科学協会、平成2年5月1日

○「古宇利島における倍脚類と陸産貝類について」『沖縄県立博物館総合調査報告書ーⅧー
古宇利島』沖縄県立博物館 平成3年3月

千木良 芳 範

○「南大東島の造網性のクモ類について」『沖縄生物教育研究会誌』第23号 平成2年11月

○『森の仲間たち』国頭村教育委員会 平成3年2月

○「古宇利島のクモ類について」『沖縄県立博物館総合調査報告書ーⅧー古宇利島』
沖縄県立博物館 平成3年3月

○「沖縄島ヤンバル地域におけるU字型側溝への小動物の落下について (Ⅱ)定期調査区に

おける落下状況の分析」『沖縄県立博物館紀要』第17号 平成3年3月

大 城 學

- 「古宇利島の祭場と儀礼」『県立博物館総合調査報告書 VIII-古宇利島-』 沖縄県立博物館 平成3年3月
- 「玉城盛義の芸歴と芸風」『沖縄県立博物館紀要』第17号 沖縄県立博物館 平成3年3月
- 「本部町字伊野波のシニグイの神歌」『沖縄の神歌(IV)-沖縄本島(1)-』 沖縄県教育委員会、平成3年3月
- 「国頭村字比地のウンジャミの神歌」『沖縄の神歌(IV)-沖縄本島(1)-』 沖縄県教育委員会 平成3年3月
- 「沖縄における籠りの儀礼と芸能『藝能』桜楓社、1平成2年6月号、第32巻6号
- 「沖縄の祭り そのおもしろさ」『Coralway』南西航空 平成2年9/10月号、vol.32)

津 波 古 聡

- 池田 栄史 (共著)「灰釉碗の話」『沖縄県立博物館紀要』第17号 沖縄県立博物館 平成3年3月

萩 尾 俊 章

- 「宮古・八重山諸島における〈酒〉の歴史の変遷」『沖縄県立博物館紀要』第17号 沖縄県立博物館 平成3年3月
- 「宗教的職能者の諸相～ユタとサンジンソウ～」『北谷町史 第3巻資料編2民俗編』北谷町編集発行 平成3年3月

VI 收藏資料

1 收藏資料現在高

平成3年3月31日現在

分類	受理次第	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	600	425	6	2	1,033	10,107
	動物	929	6,800	468	12	8,209	
	植物	15	850	0	0	865	
美術工芸	絵画	69	516	1	0	586	8,802
	書跡	157	375	41	3	576	
	彫刻	5	112	132	0	249	
	陶磁器	427	3,130	249	492	4,298	
	漆器	227	195	162	0	584	
	染織	1,068	1,431	10	0	2,509	
歴史資料		425	3,428	333	74	4,260	4,260
考古資料		8	1,560	975	15	2,558	2,558
民俗資料		2,368	643	578	77	3,666	3,666
総計		6,298	19,465	2,955	675	29,393	29,393

2 平成2年度(1990)收藏資料

平成2年4月1日～平成3年3月31日

分類	受理次第	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質		1			1	17
	動物		16			16	
	植物						
美術工芸	絵画	2	4			6	20
	書跡		1			1	
	彫刻						
	陶磁器	1				1	
	漆器	2	2			4	
	染織	1	7			8	
歴史資料		5	76		1	82	82
考古資料				78		78	78
民俗資料		3	62			65	65
総計		14	169	78	1	262	262

3. 平成2年度(1990)収蔵資料目録

寄贈の部

(平成2年度4月1日～平成3年3月31日)

分類	品名	数量	寄贈者名	住所	
自然史	地質	鉱物セット	1	島田文子	沖縄市
	動物	タガヤサンミナシ 他	2	崎枝進	那覇市
	〃	ゴイサギ 他	5	国吉喜一	那覇市
	〃	ヒクイナ 他	3	安座間安史	今帰仁村
	〃	イソヒヨドリ 他	3	玉城常雄	南風原町
	〃	カワセミ	1	久貝直彦	那覇市
	〃	サシバ	1	神谷俊江	宜野湾市
	〃	アマミヤマシギ マングース 他	1 4	池原貞雄 金城廣子	那覇市 那覇市
美術 工芸	絵画	牡丹の図(孫克弘作)	1	花城可蒲	沖縄市
	〃	達磨の図	1	胡屋朝謙	東京都
	〃	江戸上り行列図	1	安居道清	神奈川県
	〃	壺屋	1	大城福清	玉城村
	書跡	和歌	1	池城安正	大阪府
	陶磁器	緑釉魚籃観音像 他	2	マイケル・R・ディロ	在沖米軍
	染織	高機	1	上原隆昭	那覇市
	〃	草花文様プリント着物	2	宮平トシ	那覇市
	〃	地機 他	2	大城 亀	那覇市
	〃	黄八丈裂 他	2	伊藤 勝一	浦添市
歴史資料		復帰時のドルと日本円引換書 他	13	大嶺 昇	那覇市
		ペリーの『日本遠征記』	1	ニール・R・ウェスターデール	国頭村
		戦時債権1円 他	13	下地弘政	浦添市
		10円紙幣 他	15	島田文子	沖縄市
		円覚寺古材(推定)	2	照屋寛照	那覇市
		孔子廟礎石(推定)	3	大村徳幸	那覇市
		旧琉球政府コンクリート製図根点	1	比嘉元子	那覇市
		大日本国防婦人会たすき 他	2	伊藤 勝一	浦添市
		建造物の礎石	1	宮平トシ	那覇市
		大正八年測図二万五千分之一地形図	1	国土地理院	那覇市
		軍用手票10円(丙号・改造3号)	2	仲村達矢	那覇市
		琉球船舶旗	1	金城清昭	糸満市

分 類	品 名	数量	寄 贈 者 名	住 所
民俗 資料	石厨子	1	マイケル・R・ディルロ	在沖米軍
	炊飯鍋 他	6	池原 秀光	沖 繩 市
	墓敷証文	2	比嘉 栄保	那 覇 市
	風弾	2	亀島 章哲	埼 玉 県
	煙管(真鍮製)	1	大 城 満	具志川市
	三線	1	大宜味 盛光	沖 繩 市
	編み袋(わら製) 他	6	栗田 文子	神奈川県
	火消し桶 他	5	名護 良邦	宜野座村
	土帝君(台湾製)	1	窪 徳 忠	東 京 都
	アラユイ 他	8	神田 祐昇	沖 繩 市
	三線箱	1	琴宮 城 澄	那 覇 市
	張り子(黒豚に乗る子供)	1	安枝 俊雄	神奈川県
	石厨子 他	2	喜納 兼信	宜野湾市
	石臼 他	4	照屋 寛輝	那 覇 市
	御殿型厨子甕 他	9	瀬名波 勝一	中 城 村
	まな板 他	6	吉田 ヒデ	那 覇 市
	三線	1	慶世村 清裕	那 覇 市
	船旗	3	実習船海邦丸	那 覇 市

収集の部

分 類	品 名	数量
考古資料	平(女)瓦<首里城跡>	1
	平(女)瓦片<首里城跡>	4
	平(男)瓦片<首里城跡>	1
	青磁片(瀬戸内町佐知克遺跡)	2
	土器片(瀬戸内町佐知克遺跡)	3
	青磁片(瀬戸内町渡連採集)	2
	褐釉陶器片(瀬戸内町渡連採集)	1
	青磁片(瀬戸内町安脚場遺跡)	1
	須恵器片(瀬戸内町安脚場遺跡)	4
	青磁片(瀬戸内町於齊遺跡)	3
	須恵器片(瀬戸内町与路集落内)	4

分 類	品 名	数量
考古資料	青磁片(瀬戸内町伊子茂遺跡)	6
	褐釉陶器片(瀬戸内町伊子茂遺跡)	2
	土器片(瀬戸内町伊子茂遺跡)	2
	磨石(瀬戸内町安脚場遺跡)	1
	須恵器片(瀬戸内町西安室集落内)	4
	土器(瀬戸内町安脚場遺跡)	2
	有田焼片(瀬戸内町嘉八集落内)	4
	土器片(瀬戸内町須子茂集落内)	1
	土器片(瀬戸内町与路集落内)	29
	陶器片(瀬戸内町与路集落内)	1

移管の部

分 類	品 名	数量
歴史資料	武徳殿模型一式	1

購入の部

分 類	品 名	数量
美術 工芸	絵 画 文人画・向芝祥書	2
	陶 磁 器 古我地焼・筒花生	1
	漆 器 朱漆沈金山水人物食籠	1
	” 朱漆海老文堆錦硯箱	1
	染 織 藍染ムルドウッチリ上衣	1
歴史資料	『琉球和解宋名臣言行録』(上・下)	2
	モンタヌス日本誌挿画「鹿児島図」	1
	鄭永泰書卷子「巢雲園序」	1
	陶器製蒸留器	1
民族資料	アングマの面	2
	みろくの面	1

4 所蔵国県指定文化財

国指定文化財重要文化財

平成3年3月31日現在

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍	おもろさうし	22冊	昭48. 6. 6	県立博物館	沖縄県
〃	混効験集	2冊	〃	〃	〃
工芸	銅鐘(旧首里城正殿鐘)	1口	昭53. 6.15	県立博物館	沖縄県
〃	梵鐘(旧円覚寺殿前鐘)	} 3口	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧円覚寺殿中鐘)				
〃	梵鐘(旧円覚寺楼鐘)				

県指定文化財有形文化財

平成元年3月31日現在

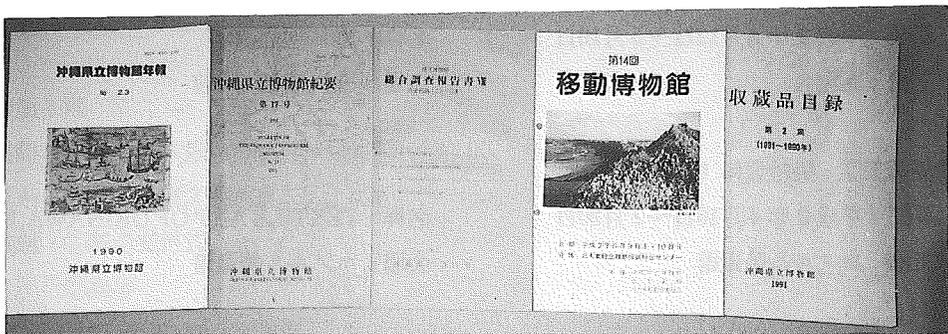
種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書世持橋勾欄羽目	1軀1枚 1括	昭33. 3.14 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
絵画	絹本着色花鳥図(股元良筆)	1幅	昭54. 4. 9	県立博物館	沖縄県
〃	紙本着色雪中雉子の図(股元良筆)	〃	〃	〃	〃
〃	紙本墨画竹の図(股元良筆)	〃	昭57. 4. 1	〃	〃
〃	紙本着色奉使琉球図(朱崔年筆)	1巻	〃	〃	〃
工芸	三味線江戸与那	1挺	昭33. 8.15	県立博物館	沖縄県
〃	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1本	昭33. 3.14	〃	〃
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	昭31.12.14	〃	〃
〃	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	3口	〃	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵椀	1口	昭54. 9. 3	〃	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
〃	色象嵌粟絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
〃	色嵌色差面取抱瓶	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧霊応寺鐘)	1口	60. 6. 1	〃	〃
〃	梵鐘(旧普門禅寺鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧天竜精舎鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧天尊御鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧天妃宮鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧一品種権現鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘残欠(旧波上宮朝鮮鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧大安禅寺鐘)	〃	昭63. 1.12	〃	〃
〃	黒漆薔薇堆錦軸盆	1枚	平2. 2. 6	〃	〃
〃	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1脚	〃	〃	〃
〃	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1合	〃	〃	〃
〃	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	1口	〃	〃	〃
〃	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1枚	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧永福寺鐘)	1口	〃	〃	〃
典籍	評定所格護定本 中山世鑑	6冊	昭31.12.14	県立博物館	沖縄県
〃	〃 中山世譜	19冊	〃	〃	〃
書跡	程順則の書	1巻	昭42. 4.11	県立博物館	沖縄県
〃	扁額「徳高」鄭元偉書	1架	平元. 9.29	〃	〃
〃	扁額「凌雲」林麟焜書	1架	〃	〃	〃
古文書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31.12.14	県立博物館	沖縄県

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
古 文 書	明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書	1 卷	昭49.11.11	県立博物館	沖縄県
〃	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1 幅	昭53. 4. 1	〃	〃
〃	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1 幅	昭56. 3.20	〃	〃
歴 史	安国山樹花木之記碑	1 基	平元. 9.29	県立博物館	沖縄県

VII 刊行物

刊行物名	種 類	部 数	規格(頁数)	内 容
「新収蔵品展」図録	不定期	1,000	B 5 (8)	平成1年度に、寄贈、購入、収集等で当館に入った収蔵品を紹介する同名企画展の図録。
第13回移動博物館パンフレット	不定期	1,000	B 5 (4)	北大東島において開催された移動博の展示内容を紹介。
沖縄県立博物館年報 No.23	定 期	800	B 5 (60)	前年度の当館の活動状況の報告。
沖縄県立博物館 収蔵品目録 第二集	不定期	1,000	B 5 (260)	当館が所蔵している収蔵品の総目録。1981年度から1990年度までの収蔵品を収録。
野鳥はともだち	不定期	1,000	A 5 (51)	企画展「沖縄の野鳥」展に関連する図録。県内の代表的な探鳥地を紹介。
沖縄の祭り	不定期	1,000	B 5 (114)	同名の企画展に関連した図録。沖縄の祭りについて平易な言葉で解説し、県内各地の祭りを紹介。
技と美 大城志津子図案集	不定期	600	A 4 (84)	企画展「技と美 大城志津子の世界」に関連する図録。大城氏の作品を納めた図案集。
沖縄県立博物館紀要 第17号	定 期	1,000	B 5 (82)	学芸員の調査研究報告。左記の五編を収録。
知 念 勇: 県内所在の和鏡について				
萩 尾 俊 章: 宮古・八重山諸島における「酒」の歴史的変遷				
千木良 芳 範: 沖縄島ヤンバル地域におけるU字型側溝への小動物の落下について(Ⅱ)				
池田 栄史・津波古 聡: 灰釉碗の話				
大 城 學: 玉城盛義の芸歴と芸風				
総合調査報告書Ⅷ 古宇利島	不定期	1,000	B 5 (36)	古宇利島において実施された総合調査の報告書。左記の四編を収録。
津波古 聡: 古宇利島眺望				
上 門 清 春: 古宇利島の倍脚類と陸産貝類				
千木良 芳 範: 古宇利島のクモ類について				
大 城 學: 古宇利島の祭場と儀礼				

高校生のための学習ノート	不定期	1,500	B 5 (55)	博物館利用のためのワークブック。詳細は32頁を参照。
あわもりーその歴史と文化ー	不定期	1,000	B 5 (117)	生涯教育普及図書として沖縄のあわもりについて広く普及、紹介する冊子。
ポスター	定期	1,000	B全	次年度の当館行事案内
リーフレット	不定期	3,000	A4三折	当館の行事等を紹介
博物館だより 第30号	定期	1,000	B 5 (6)	当館の行事活動等を紹介する広報紙。



博物館の刊行物①



博物館の刊行物②

VIII その他の活動

1 資料貸出

①考古：萩堂式土器 2点

期間：平成2年4月1日～平成3年3月31日 名称：日本文化のあけぼの
主催：国立歴史民俗博物館 会場：国立歴史民俗博物館

②美術工芸：タピストリー「萌芽」 1点

期間：平成2年4月12日～5月10日 名称：第64回国展
主催：国画会 会場：東京都立美術館

③美術工芸：染織資料 67点

期間：平成2年4月16日～7月20日 名称：TEXTILE ART OF OKINAWA, 1991
主催：ホノルル美術館 会場：ホノルル美術館

④沖縄の戦前の写真資料 34点

期間：平成2年5月18日～6月1日 名称：古き沖縄の文化を訪ねて
主催：西原高校図書館 会場：西原高校図書館

⑤美術工芸：切手原画 10点

期間：平成2年11月20日～11月26日 名称：全琉切手展
主催：沖縄郵趣連名 会場：那覇東郵便局

⑥歴史：歴史資料 28点

期間：平成3年1月5日～8日 名称：今甦る首里城展
主催：首里城復元期成会 会場：那覇市民会館中ホール

⑦美術工芸：大城志津子関係資料

期間：平成3年2月25日～平成3年3月25日 名称：技と美 大城志津子の世界
主催：石垣市立八重山博物館 会場：石垣市立八重山博物館

2 燻蒸処理

当博物館では資料保存のため、毎年害虫駆除を目的とした燻蒸をおこなっている。平成2年度は、7月2日（月）7月6日（金）まで、展示室を含めた大がかりな燻蒸を実施した。従来おこなっていた1階収蔵庫・漆器収蔵庫の他に、各展示室と首里城正殿模型・篇額をメチルブロマイドによって燻蒸し、その他事務室・講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除をおこなった。毎年おこなわれている展示替えは、展示室が燻蒸されることから、事前におこなわれた。

3 沖縄県立博物館協議会

(1) 第1回

日時：平成2年5月14日（月）14：00～16：00

場所：県庁13階第2会議室

議題：①辞令交付式

②議事

ア、会長・副会長選出

イ、平成2年度県立博物館の事業計画について

ウ、その他

(2) 第2回

日時：平成3年3月8日（金）10：30～13：00

場所：郵便貯金会館3階

議題：①平成3年度博物館事業について

②報告事項

沖縄県立博物館の新館建設について（答申）

4 沖縄県博物館協会

平成2年度の沖縄県博物館協会の総会ならびに研修会は、6月14日（木）と15日（金）の両日にわたって宮古の平良市総合博物館において開催された。念願の宮古での開催ということで、21の館園・個人会員の参加があり、参加者数は50人であった。総会では、平成2年度事業、予算案、次期総会開催地等について審議決定された。

引き続いての研修会は、平良市総合博物館協議会々長の佐渡山正吉氏による「諺にみる宮古の農耕生活」と題した講演を皮切りに、日越国昭（沖縄県教育庁文化課）による「博物館の登録及び博物館に相当する施設の指定に関する要領」、仲宗根将二（平良市総合博物館々長）による「平良市総合博物館建設に至るあゆみ」、久貝勝盛（県立宮古高校）による「宮古の動物自然」と題する講演報告をいただいた。研修会二日目は、現地研修と銘打って宮古本島内の平良市、下地町、上野村、城辺町の四市町村に所在する史跡めぐりでしめくくった。

秋の研修会は10月19日（金）に、浦添市の浦添市美術館において開催された。県内初の美術館ということで関心も高く、大半の館園がすでに視察を終えていたことなどもあって参加館園数は18、参加者数は61名にとどまった。

午前9時30分からの受付の後、会長あいさつで研修会の幕あきとなり、浦添市教育長の歓迎のあいさつに続いて、又吉清和浦添美術館係長の「浦添市美術館建設まで」と題した報告をきいた。その後三グループに分かれて美術館の見学を行った。美術館職員の案内で美術館を支える舞台裏を存分に見学できて好評であった。午後からは開催中の県展を自由見学して、浦添市文化課の職員の案内で浦添城後、浦添ようどれ、文化課資料室、当山の石畳道、浦添市立図書館と見学した。それぞれの研修地で、担当職員の説明を受けながら、着々と進められる街づくりを実感した現地研修であった。



1990年6月15日、沖縄協現地研修(久松みゃーか)

沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館の友の会は、「博物館の事業に積極的に参加協力し、さらに会員の教養を高めることと相互の親睦をはかる」ことを目的として1980年1月に発足した。その間会員もしだいに増加し、年々充実した活動を行ってきている。1990年5月21日には平成二年度の総会が本館講堂で開催され予算及び事業計画等が決定されて平成二年度の活動が開始した。

事業内容と活動状況は次のとおりである。

1990年度事業報告

1、事業

①浦添美術館めぐり（6月30日）

土曜日の午後浦添美術館で美術品を鑑賞した。

参加者：73人

②展示室解説会（7月14日）

千木良芳範氏を講師に第2室（自然史展示室）の解説会を実施した。

参加者：34人

③自然と文化財めぐり（8月11日～12日）

1泊2日の日程で久高島、津堅島、浜比嘉島の自然と文化財のめぐりを実施した。

参加者：45人

④県外研修旅行（9月14日～17日）

奄美大島での研修旅行を実施した。

参加者：28人

⑤離島めぐり（10月26日～28日）

石垣、与那国、竹富島などの視察研修を実施した。

参加者24人

⑥首里城周辺史跡めぐり（11月17日）

宮里朝光氏を講師に寒川町中央部付近の文化財めぐりを実施した。

参加者：27人

⑦イザイホー講演会と映画への誘い（12月1日）

イザイホーのはなし（講師大城学氏）の講演とイザイホーの映画（24年前の記録1巻約20分、12年前の記録2巻約100分）の映写を実施した。

参加者：131人

⑧友の会の文化講座（1991年1月12日）

上門清春氏を講師に「落ち葉や土のなかの虫たち」のテーマで文化講座を実施した。

参加者：13人

⑨会員発表会（2月16日）

第3回目の会員発表会を実施した。発表者とテーマは次のとおりであった。

- 「私の研究」（島袋 良徳氏）、「私と博物館」（糸数 慶子氏）
「わが家の家宝」（垣花 恵蔵氏）、「私と古銭」（翁長 良明氏）

参加者：44人

⑩ロード・ウォッチング（3月9日）

博物館一帯を中心にしてロード・ウォッチングを実施した。

参加者：12人

2、会員への情報提供事業

- 博物館事業及び催しものの案内状発送
- 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送
- 博物館発行印刷物の復刻販売サービス

3、博物館への援助活動

- 図書資料の寄贈（20万円相当分）

4、会誌（『博友』）、会報（『赤い瓦』）の発行

5、ミュージアムショップの経営

- 出版物・テレホンカード・絵はがき等の販売サービス
- 「万国津梁の鐘」ミニチュア 制作販売サービス
- フィルム・飲み物など販売サービス

6、その他

- 総会及び懇親会（1990年5月22日）
- 新年会（1991年1月21日）

参加者：84人

参加者：95人



「離島めぐり」研修旅行(与那国 ナンタ浜にて)

IX 新館建設

1 博物館の現状

現施設はこれからの国際化・情報化・生涯学習時代を向かえ、県民のニーズにあった博物館活動をするには、図書室・学習室・情報室等の部屋を必要とするが皆無にひとしく、また、約3万点の収蔵品を管理・保存する収蔵庫も展示室を収納庫に転用するなどの処置をしたが満杯の状態にある。

沖縄の自然・歴史・文化を総合的に展示するスペースにも限界が生じており、県民をはじめとして県外から訪れる多くの観覧者の多様なニーズに応えるための対応施設も著しく不備であり、博物館が活動していくうえで種々の制約が横たわっている。

そのために、改築や増築の案もでたが、現敷地は公園法のアミをかぶり、しかも9,000㎡以上の建物を建てるには狭く、駐車場等の問題も解決できない状況にある。

こうした問題を解決するために、博物館を広くしかも便利な場所に新築することが緊急の課題であるとして、次項の「基本的な考え方」をもとに用地の選定にあっている。又、教育長は沖縄県立博物館新館建設検討委員会に「沖縄県立博物館の基本構想」について専門的立場から調査・検討を諮問した。

2 基本的な考え方

沖縄県立博物館の新館を建設するに当たって、以下のことを基本的な考え方として事業を推進する。

- (1) 県立博物館に相応しい施設を建設するため、建設検討委員会を設置して広く県民の意見を反映し、事業を推進する。
- (2) 用地は、立地条件の良い場所で、2万5千平方メートルを確保することが望まれる。それには、天久那覇新都心地区内の文化施設用地が最適地である。なお、現敷地は、首里城公園とのからみがあるので、引き続き文化施設として利用する方向で検討する。
- (3) 自然・考古・歴史・美術工芸・民俗の各資料を収集し、保存し、展示し、調査研究する「総合博物館」の性格をもたせる。
- (4) 建設にむけての事業は、数年を要することから、平成2年度から事業を開始し、ポスト2次振計の主要事業とする。
- (5) 建物の規模については、「展示部門」「収蔵部門」「調査研究部門」「教育普及部門」「管理部門」の各部門を充実に機能させるため、総延面積1万8千平方メートル程度を必要とする。

3 沖縄県立博物館新館建設検討委員会の会議等

○第一回目の会議

日時：平成2年7月16日（月）14：00～16：00時

場所：沖縄県教育委員会第2会議室

会順：辞令交付式

教育長あいさつ

議事 会長・副会長選出

趣旨説明

新館検討委員会のスケジュール説明

○国内先進博物館視察

実施予定時期：平成2年9月11日（火）～14日（金）3泊4日

視察予定の博物館（東京周辺と福岡・四国の2グループに分かれて実施）

Aグループ：（千葉中央博物館と栃木県立博物館を視察）

池原貞雄・高宮廣衛・屋田直勝委員と副館長・学芸課長

Bグループ：（福岡市立博物館と徳島文化の森を視察）

新城紀秀・安次富長昭・大山千恵子委員と教育普及課長・庶務課長

○第二回目の会議

日時：平成2年10月22日（月）

場所：県立博物館会議室

議題：先進博物館視察報告と意見

（現博物館施設を案内）

○第三回目の会議

日時：平成2年11月27日（火）

場所：県立博物館会議室

議題：建設基本構想案の検討

○第四回目の会議

日時：平成3年1月10日（木）

場所：県立博物館会議室

議題：建設基本構想の検討

○第五回目の会議

日時：平成3年1月10日（木）11：00～13：00

場所：沖縄郵便貯金会館2階

議題：基本構想（案）の検討

○平成3年3月7日池原貞雄会長及び鈴木雅夫副会長から高良清敏教育長へ答申した。

4 予算

平成2年度は、「博物館新館建設検討委員会」の活動費用として、会議費・調査費等の予算を2,694千円計上した。

X 日誌抄（平成2年4月～平成3年3月）

- 4月8日 中国国際交流協会副会長張香山氏来館
- 5月15日 文部省大臣官房審議官草場宗春氏来館
19日 厚生省児童家庭局長古川貞二郎氏来館
22日 沖縄開発庁振興第一課長由良範泰氏来館
24日 埼玉県文教委員会一行16名
25日 マラヤ大学副学長サイド・フセイン・アラタス氏（マレーシア）来館
29日 文化課・博物館行政連絡会議：当館
- 6月10日 中国第一歴史档案馆 鞠徳源氏来館
27日 翁長助裕副知事来館
29日 湧田窯搬入：県庁にあった窯を26日からプレハブを解体し、窯を積み込み、構内に組み立て設置する。
- 7月12日 文部省助成課長補佐三村浩史来館
22日 日本博物館協会津軽義孝氏来館
31日 沖縄郵便管理事務所所長片桐啓之氏来館
- 8月5日 文部省初任者研修一行400名
12日 文部省初任者研修一行400名
19日 日本玩具博物館長井上重義氏来館
- 10月25日 運輸政務次官二階俊博氏来館
公正取引委員会委員佐藤徳太郎氏来館
- 1月29日 漢陽大学校教授金 秉模氏来館
那覇家庭裁判所長生島三則氏来館
- 2月23日 文化庁伝統課長小林孝男氏来館
- 3月14日 北京市人民政府外事為公室 崔国伟氏来館
17日 中国档案局長来館
19日 国立公文書館公文書課長小林一夫氏来館

XI 関係法規抄録

○博物館法 (昭和26・12・1)

法律第285号

〔最近改正〕 昭和61・12・4・法律第93号

第1章 総則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法(昭和24年法律第207号)の精神に基き、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管(育成を含む。以下同じ。)し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関(社会教育法による公民館及び図書館法(昭和25年法律第118号)による図書館を除く。)のうち、地方公共団体、民法(明治29年法律第89号)第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

(博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- 1 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
- 3 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
- 4 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 5 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
- 6 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作製し、及び頒布すること。
- 7 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を

援助すること。

- 8 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法(昭和25年法律第214号)の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
- 9 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
- 10 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに当っては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第4条 博物館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
- 3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
- 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
- 5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
- 6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- 1 学士の称号を有する者で、大学において文部省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの
 - 2 大学に二年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
 - 3 文部大臣が、文部省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
- 2 前項第2号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

第6条 学校教育法(昭和22年法律第26号)第56条第1項の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第9条 削除

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- 1 設置者の名称及び私立博物館にあっては設置者の住所
 - 2 名称
 - 3 所在地
- 2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添付しなければならない。
- 1 公立博物館にあっては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
 - 2 私立博物館にあっては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があった場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めるときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めるときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

- 1 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- 2 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- 3 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- 4 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があったとき、

又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があったときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に係る変更があったことを知ったときは、当該博物館に登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至ったものと認めるとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至った場合においては、その要件を欠くに至った日から2年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定による登録の取消をするに当っては、あらかじめ、当該博物館の設置者に対し、陳述する機会を与えなければならない。

3 都道府県の教育委員会は、第1項の規定により登録の取消をしたときは、当該博物館の設置者に対し、すみやかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまづ消さなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

(報告の義務)

第17条 都道府県の教育委員会は、文部大臣に対し、その求めに応じて、当該教育委員会において登録した博物館に関し必要な事項について報告しなければならない。

第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者

の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

2 博物館協議会の委員については、社会教育法第15条第3項及び第4項の規定を準用する。

(入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の1に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

1 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があったとき。

2 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。

3 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。

4 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雑則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあっては文部大臣

が、その他の施設にあっては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

附 則

(施行期日)

- 1 この法律は、公布の日から起算して3箇月を経過した日から施行する。

(経過規定)

- 2 第6条に規定する者には、旧中等学校令(昭和18年勅令第36号)、旧高等学校令又は旧青年学校令(昭和14年勅令第254号)の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部章令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令(昭和27年3月20日
政令第47号)

最近改正 昭和34年4月30日政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法(以下「法」という。)第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社
- 2 日本放送協会

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費
- 2 設備費 博物館に備え付ける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

附 則

この政令は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年5月15日
条例第24号)

最終改正 昭和63年3月31日条例第17号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条、図書館法(昭和25年法律第118号)第10条及び博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則(昭和47年5月15日
教育委員会規則第2号)

最終改正 平成元年6月30日教育委員会規則第7号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第4条 沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)に、次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

- (1) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (2) 公印の管守に関すること。
- (3) 施設設備の管理に関すること。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) 博物館協議会に関すること。
- (6) 他課の所掌に属さない事務に関すること。

学芸課

- (1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
- (3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
- (4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

教育普及課

- (1) 博物館資料の利用相談に関すること。
- (2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
- (3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則(昭和47年5月15日)

教育委員会規則第13号

最終改正 平成元年3月31日教育委員会規則第4号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備(備品を含む。以下同じ。)を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておくなければならない。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法(昭和23年法律第186号)第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ず

ることができる。

- 2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

（職員の服務等）

- 第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

（文書）

- 第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

（開館時間）

- 第9条 博物館の開始時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

（休館日）

- 第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 定期休館日 月曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日（こどもの日及び文化の日を除く。）
- (3) 慰霊の日 6月23日
- (4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで
- (5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで
- (6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

- 2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

（寄贈及び寄託）

- 第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申込書（第2号様式）を提出しなければならない。

- 2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。
- 3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

（寄託資料の保管）

- 第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

（寄託資料の返付）

- 第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

（経費の負担）

- 第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

- 第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館の禁止等)

第17条 精神病患者、伝染病患者、酩酊者その他館内の秩序を乱す行為のあると認められる者に対し館長は、入館を禁止し、又は退館させることができる。

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設(講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。)を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書(第4号様式)を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

(1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの

(2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの

(3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの

(4) 社会教育上不相当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

第1号様式 (第11条関係)

博物館資料寄贈申込書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申込者
住所
氏名 ㊟

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。

記

- 1 種別
- 2 作者名
- 3 作品名
- 4 製作年月日
- 5 附属品
- 6 資料の所在地
- 7 時価見積額
- 8 寄贈の理由

受諾書

上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 ㊟

第2号様式 (第11条関係)

博物館資料寄託申込書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申込者
住所
氏名 ㊟

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。

記

- 1 種別
- 2 作者名
- 3 作品名
- 4 製作年月日
- 5 附属品
- 6 資料の所在地
- 7 寄託期間

平成 年 月 日から
平成 年 月 日まで

第3号様式 (第11条関係)

博物館資料受託承認書

平成 年 月 日

殿

沖繩県立博物館長

平成 年 月 日付け申請のあった博物館資料の寄託については、下記により受託します。

記

1	種別	
2	作者名	
3	作品名	
4	製作年月日	
5	附属品	
6	受託期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで
7	備考	

第4号様式 (第18条関係)

博物館施設使用許可申請書

平成 年 月 日

沖繩県立博物館長 殿

申請者氏名

電話

下記により貴館施設を使用したいので許可して下さるようお願いいたします。

記

1	使用者	
	団体名	及び
	代表者名	職業 ()
	住所	電話
2	使用目的	
3	使用する施設	1 ホール 2 臨時陳列室
4	使用する日時及び期間	
	自	平成 年 月 日 午 時 分 ()
	至	平成 年 月 日 午 時 分 日間
5	予定参加人員	人
6	その他必要な資料 (プログラム等)	

許可書

平成 年 月 日 付申請の () 使用の件、申請どおり許可します。

沖繩県立博物館長

○沖縄県立博物館協議会規則(昭和47年10月2日
教育委員会規則第29号)

(趣 旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組 織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委 員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任 期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

(会 議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行うために必要とする費用の弁償を受けることができる。

(庶 務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑 則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例(昭和47年5月15日
条例第37号)

最終改正 平成元年3月31日条例第22号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の徴収)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認められる者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附則

この条例は、公布の日から施行する。

別表第1 (博物館の入館料) (第2条関係)

使用者	入館料
一般	200円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体(20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖縄県立博物館年報 No.24

平成3年6月10日発行

編集・発行 沖縄県立博物館

住 所 沖縄県那覇市首里大中町1の1

☎ 903 TEL: 098-884-2243

886-4353

印 刷 (株) 尚 生 堂

住 所 沖縄県浦添市沢岬70番地

TEL: 098-876-2232(代)

1991年度 博物館年間行事一覧

○企画展

- 新収蔵品展 1991年5月14日(火)～5月26日(日)
 沖縄のチョウ展 8月1日(火)～8月25日(日)
 壺屋の陶工遺作品展 9月17日(火)～10月6日(日)
 琉球の香り・泡盛の歴史と文化 1992年2月4日(火)～2月23日(火)

○特別展

- アジアの祭りと芸能—仮面と音楽— 1991年10月15日(火)～12月1日(日)

○第15回 移動博物館—竹富町・大原—

- 場所: 竹富町離島振興センター 1991年6月7日(金)／8日(土)
 講演会: 八重山のうた 6月8日(土)
 講師 波照間 永吉(沖縄県立芸術大学附属研究所助教授)

○博物館文化講座

- 第200回 200回記念「稲作の起原と伝来」 1991年4月20日(土)
 講師 佐々木 高明(国立民族学博物館教授)
 第201回 海の中のおぶない奴ら 5月18日(土)
 講師 新城 安哲(沖縄県公害衛生研究所ハブ研究部研究員)
 第202回 八重山の神歌 6月15日(土)
 講師 波照間 永吉(沖縄県立芸術大学附属研究所助教授)
 第203回 仲原遺跡と貝塚時代の住居 7月20日(土)
 講師 上原 静(沖縄県教育庁文化課専門員)
 第204回 野外観察会チョウチョウと遊ぼう 8月4日(日)
 講師 長嶺 邦雄(佐手中学校教諭)
 第205回 展示解説会 壺屋の陶工 9月21日(土)
 講師 平良 邦夫(沖縄県工芸産業振興審議委員会副会長)
 第206回 特別講演 アジア音楽のコスモロジー 10月15日(火)
 講師 藤井 知昭(国立民族学博物館教授)
 第207回 首里城物語 11月16日(土)
 講師 真栄平 房敬(那覇市文化財審議委員)
 第208回 収蔵品解説会 沖縄の文様 12月21日(土)
 講師 翁 長自修(琉球大学教育学部美術工芸科教授)
 第209回 中国の古窯を訪ねて 1992年1月18日(土)
 講師 知念 勇(沖縄県教育庁文化課課長補佐)
 第210回 泡盛の話 2月15日(土)
 講師 照屋 比呂子(沖縄県工業試験場食品室長)
 第211回 歴史の道を歩く 3月14日(土)
 講師 当真 嗣一(沖縄県立博物館教育普及課長)
 萩尾 俊章(" 学芸員)

○夏休み「歩く・見る・作る」教室

- ① 親子文化財めぐり 1991年7月27日(土)
 ② 映画を見よう(郷土の文化を知る) 8月11日(日)
 ③ 親子土器作り 8月25日(日)